

Ⅱ 調査研究の結果

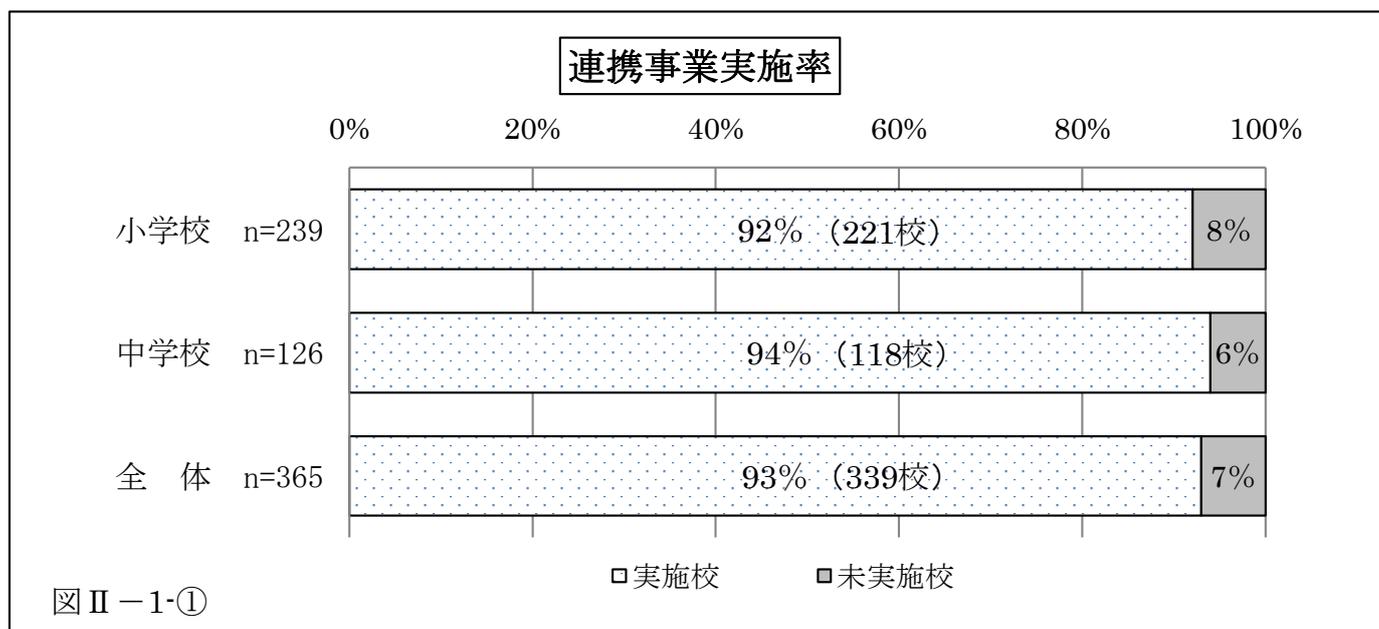
1 学校対象アンケート調査

(1) 回収状況

表Ⅱ-1-① 学校対象アンケート調査回収率

対 象	調査数	回答数	回収率
小学校	256	239	93.4%
中学校	137	126	92.0%
合 計	393	365	92.9%

問1 貴校は、近隣（1km以内程度）にある次のような公立社会教育施設【公民館・図書館・博物館・美術館・資料館・生涯学習センター（コミュニティセンターを含む）】と連携していますか。
 ※連携しているとは、機材や部屋の貸借、人材の紹介、事業の協力、チラシ配布、事業の共催、合同事業などを含みます。



社会教育施設との連携事業を実施しているのは、小学校 92%（221 校）、中学校 94%（118 校）である。小学校・中学校のどちらも連携実施率は 9 割以上になっており、全体では 93%（339 校）の小・中学校が、近隣の社会教育施設と連携している。

問2 問1で「イ いいえ」と回答された理由はどのようなものですか。

表Ⅱ-1-② 連携を行わない理由

理 由	小学校 (n=18)	中学校 (n=8)
近隣に施設がない (遠い)	13	5
必要性を感じられない	3	1
時間的な余裕がない	1	0
機会・計画・実績がない	0	1
その他	1	1

〔小学校〕 n = 18

「近隣に対象となる施設がない」が13校と最も多かった。その理由については、「実際に施設までの道のりを測ると1 km以上離れている」や「該当する施設がない」であった。「該当する施設がない」と回答した学校に、近隣の社会教育施設名を伝え確認すると、連携していることに気づき、5校から再回答が提出された。再提出された5校分については、「連携事業実施あり」に加えた。このことから、近隣の施設を「社会教育施設」として認識していない現状や実際の距離以上に感じている「心理的距離」の問題がうかがえる。

次に、「必要性を感じられない」が3校となっている。その理由は、「施設や講座などを利用することはあるが、連携までする必要性がない」や「活用するものの連携とまでは言えない」や「(近隣にある社会教育施設とは) 特に利用する必要性を感じない。スクールバスを使って市内(1 km以上)の施設はさかんに利用している」であった。質問の中に具体的な連携について、例示(機材や部屋の貸借、人材の紹介、事業の協力、チラシ配布、事業の共催、合同事業など)はしているものの「連携」に対するイメージが回答者によって異なっていることが分かる。また、バスを使って市内の施設を利用していることから、学習内容から教科等では近隣の施設を利用できない現状や教科以外で利用に関する情報の不足が考えられる。

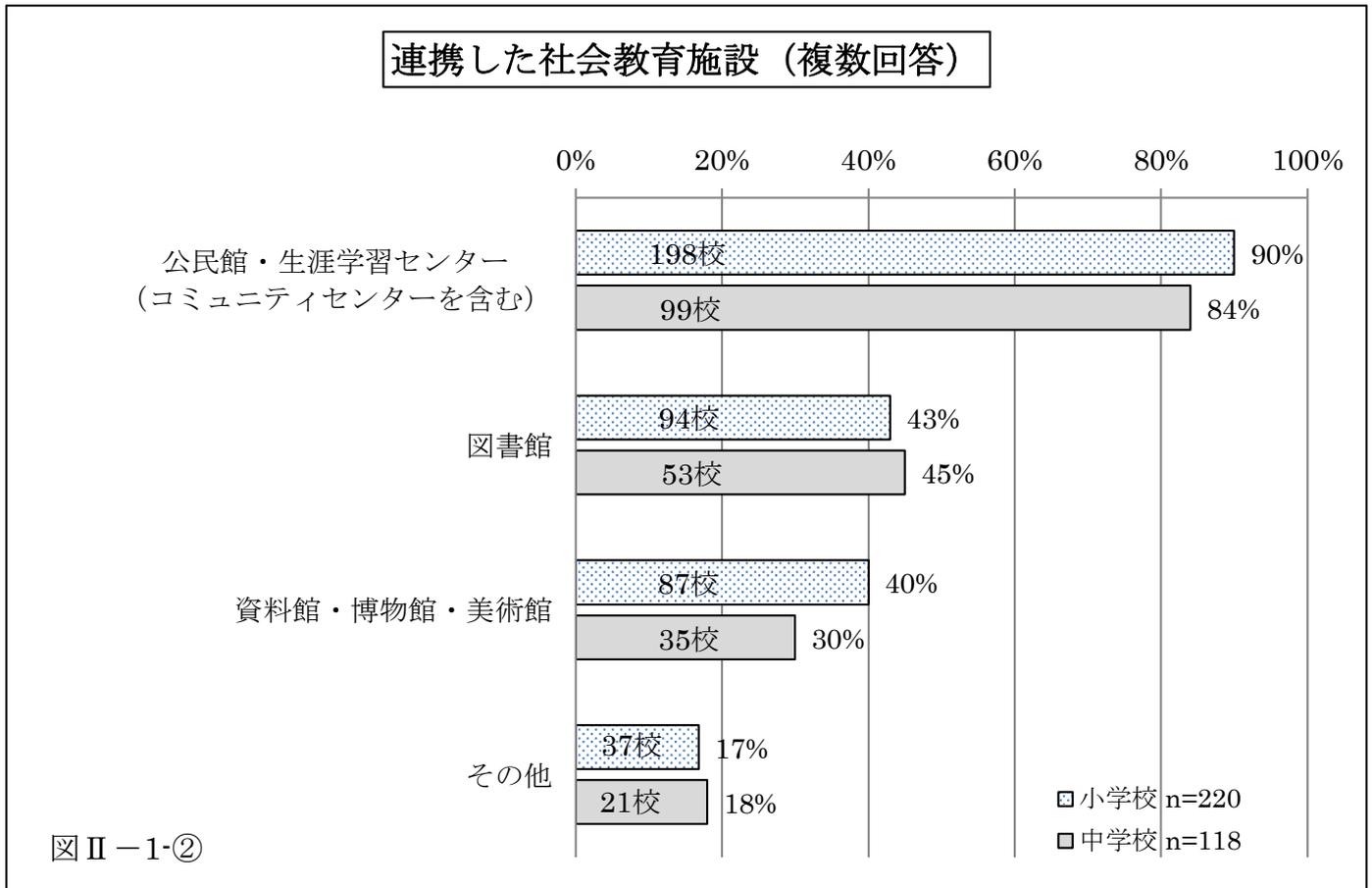
そして、「時間的な余裕がない」1校、「その他」1校がそれに続く。その理由は、「登録された学校支援ボランティアの方々との連携が充実しており、教育活動を行う上で、教育施設との連携を依頼しなくても支障なく行っている。新たに連携する活動を取り入れるだけの余裕がない」や「実施日が閉館日と重なり行うことができなかった」であった。この回答から、「開かれた学校づくり」や「地域との連携」が学校支援ボランティアとの連携により充実していると狭く捉えられてしまっている点や、授業の進度や学校の予定等で日程を柔軟に調整することが難しい現状がうかがえる。

〔中学校〕 n = 8

「近隣に対象となる施設がない」が5校で最も多く、次に「必要性を感じられない」が1校、「機会・計画・実績がない」が1校、「その他」1校となっている。基本的には小学校の結果と似たものになっているが、「今年度は特に連携する計画を立てなかった」の回答から、年間指導計画への位置づけなどが連携していく上での足がかりになると考える。また、小学校と同じように当初「該当する施設がない」と回答し、近隣の施設名を伝え確認した後に、再回答が提出された2校分については、「連携事業実施あり」に加えた。

なお、「連携を実施していない」と回答している学校の回答票を丁寧に見ていくと、実際には具体的な連携事例と解釈できる報告や回答があり、「実施していない」という回答は必ずしも現状を正しく表していないが、本調査では、「連携していない」という回答数を変更することなく、サンプルを取り扱っているので、項目によっては数字の整合性がとれていない。

問3 昨年（平成24年）度、連携した社会教育施設はどこですか。（複数回答可）



〔小学校〕 n = 220

連携事業を実施していると回答のあった221校のうち、220校から連携した社会教育施設の回答があった。

連携した施設では、「公民館（自治公民館は除く）・生涯学習センター（コミュニティセンターを含む）」が最も多く198校（90%）で、順に「図書館」が94校（43%）、「資料館・博物館・美術館」が87校（40%）であった。「その他」で記入のあった施設（団体）名には、「文化会館（センター）」や「社会福祉施設（協議会）」「市町立体育館」「市役所」「集会所」「郵便局」「保育所（園）」「児童館（子ども館）」「宇大スクールサポートセンター」「シルバー大学校」「農業研修センター」「科学教育センター」「（財）グリムの館」「環境学習センター（NPO法人足尾の緑を育てる会）」が挙げられていた。学校側の社会教育施設の認識が広いことが分かる。

〔中学校〕 n = 118

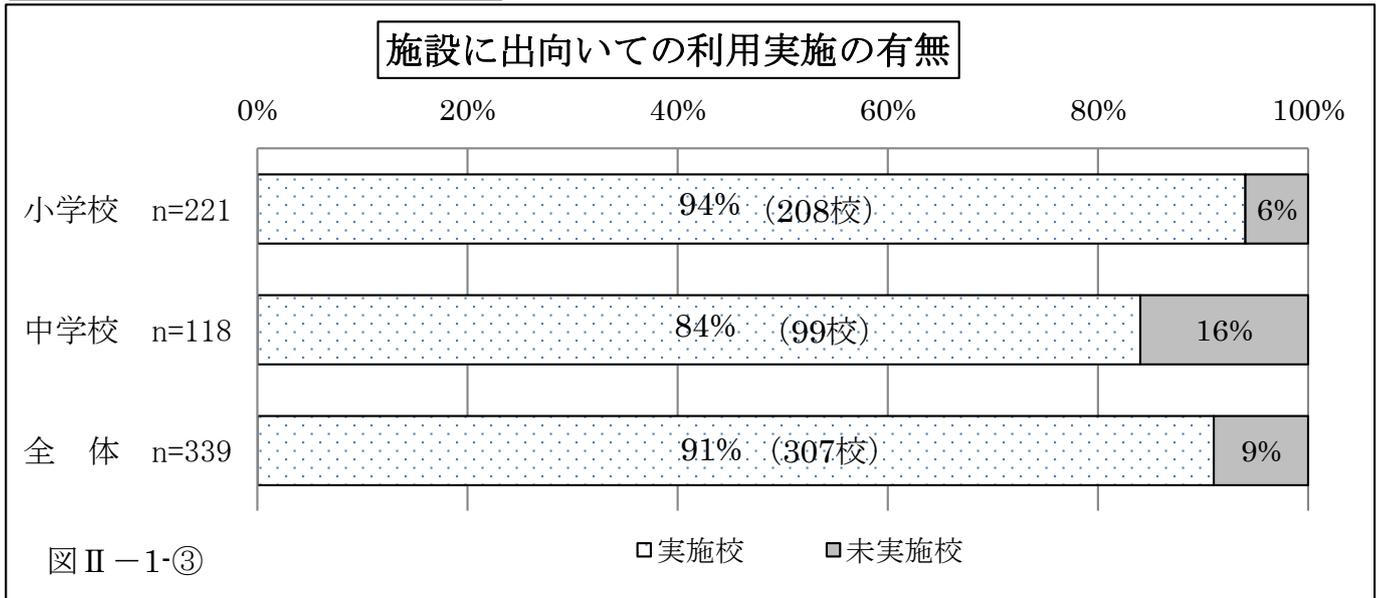
連携事業を実施していると回答のあった118校、全てから回答があった。

連携した施設では、「公民館（自治公民館は除く）・生涯学習センター（コミュニティセンターを含む）」が最も多く99校（84%）で、順に「図書館」が53校（45%）、「資料館・博物館・美術館」が35校（30%）であった。割合順は、小学校と同じである。「その他」で挙げられた施設（団体）では、「文化会館（センター）」や「社会福祉施設（協議会）」「市町立体育館」「市役所」「青年会議所」「商工会」「栃木県織物支援センター」「児童館」「科学教育センター」「中央水産研究所（中禅寺湖漁業協同組合）」「プラネタリウム」「植物園」「隣保館」が挙げられた。小学校よりさらに「文化会館（センター）」や「市町立体育館」と連携している学校が多かった。「文化会館大ホールの使用において、ホールが空いている時はステージ等を使わせてもらえる。夏季休業中などは空調も効いており快適に活動している」「地区センター附属の体育館を利用することが多々ある。目的は部活動で、主にバスケットボール、卓球が利用している。本校の体育館が狭いので助かっている」など、部活動での施設利用の利点について回答があった。

問4 昨年（平成24年）度、あなたの学校では、どのような内容で社会教育施設を利用しましたか。

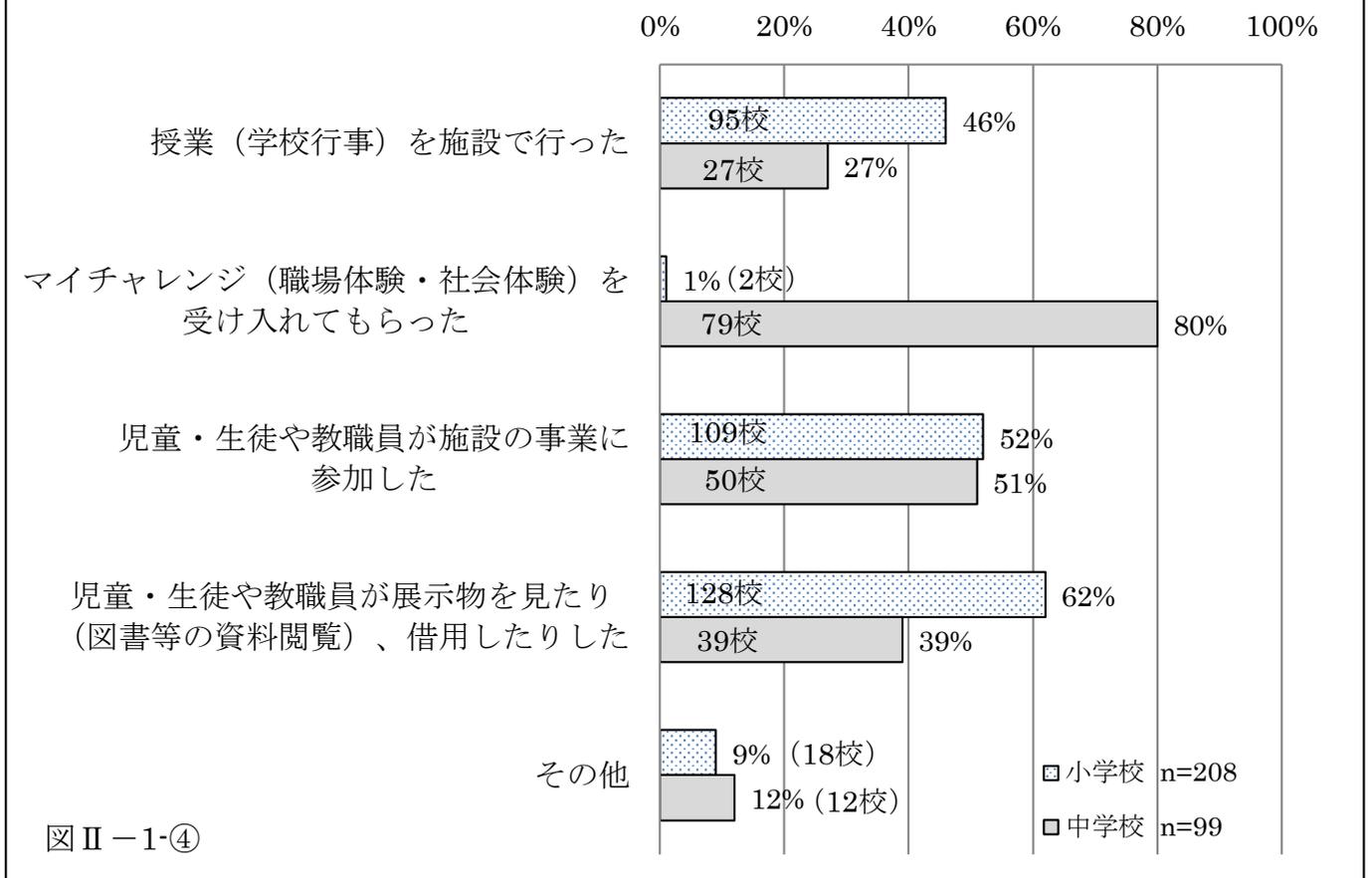
（複数回答可）

① 各施設に向いての利用形態



各社会教育施設に向いて利用しているのは、小学校 94%（208校）、中学校 84%（99校）であった。中学校は、小学校に比べ利用実施の割合が少ない。全体では、91%（307校）の小・中学校が、近隣の各社会教育施設に向いて利用している。

施設に向いての利用形態（複数回答）



〔小学校〕 n = 208

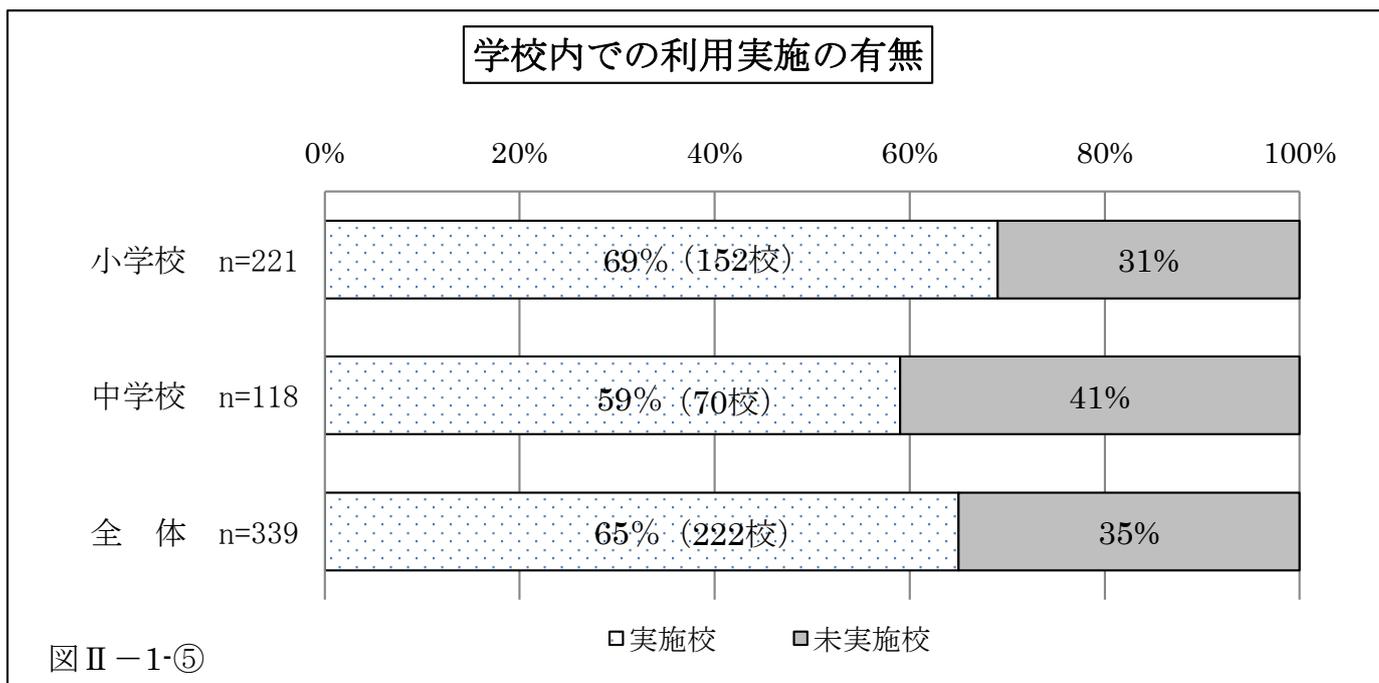
事業内容では、「展示物を見たり（図書等の資料閲覧）、借用したりした」が最も多く 128 校（62%）で、「施設の事業に参加した」が 109 校（52%）、「授業（学校行事）を施設で行った」が 95 校（46%）、「マイチャレンジ（職場体験・社会体験）を受け入れてもらった」が 2 校（1%）となっている。その他では、「合唱部・ダンスの練習場」「持久走大会の会場として利用」「教職員研修の会場借用」「PTA 会議・行事を実施（共催）」「地域・自治会の会議に出席」「総合的な学習の時間で学習したことの発表（提案）会場として利用」「公民館の会議室にて教育相談を年 6 回実施」「施設においてボランティアの方の指導で野鳥観察を実施」がある。また、「その他」の欄に「生活科見学」などと記入してきたケースについては「授業で利用した」に含め、「機材の借用」については「展示物を見たり借用したりした」に含めた。

〔中学校〕 n = 99

事業内容は「マイチャレンジ（職場体験・社会体験）を受け入れてもらった」が最も多く 79 校（80%）となっている。近隣社会教育施設でのマイチャレンジ（職場体験・社会体験）の実施が多いことが分かる。以下「施設の事業に参加した」が 50 校（51%）、「展示物を見たり借用したりした」が 39 校（39%）、「授業（学校行事）を施設で行った」が 27 校（27%）と続く。その他では、「地区懇談会・教職員研修の会場」「教職 10 年目研修における社会体験等研修」「部活動（陶芸教室）（吹奏楽部の練習）」「家庭教育学級（PTA）」「PTA 事業等での部屋・備品の借用」「中学生海外派遣事業（事前研修会場）」があった。

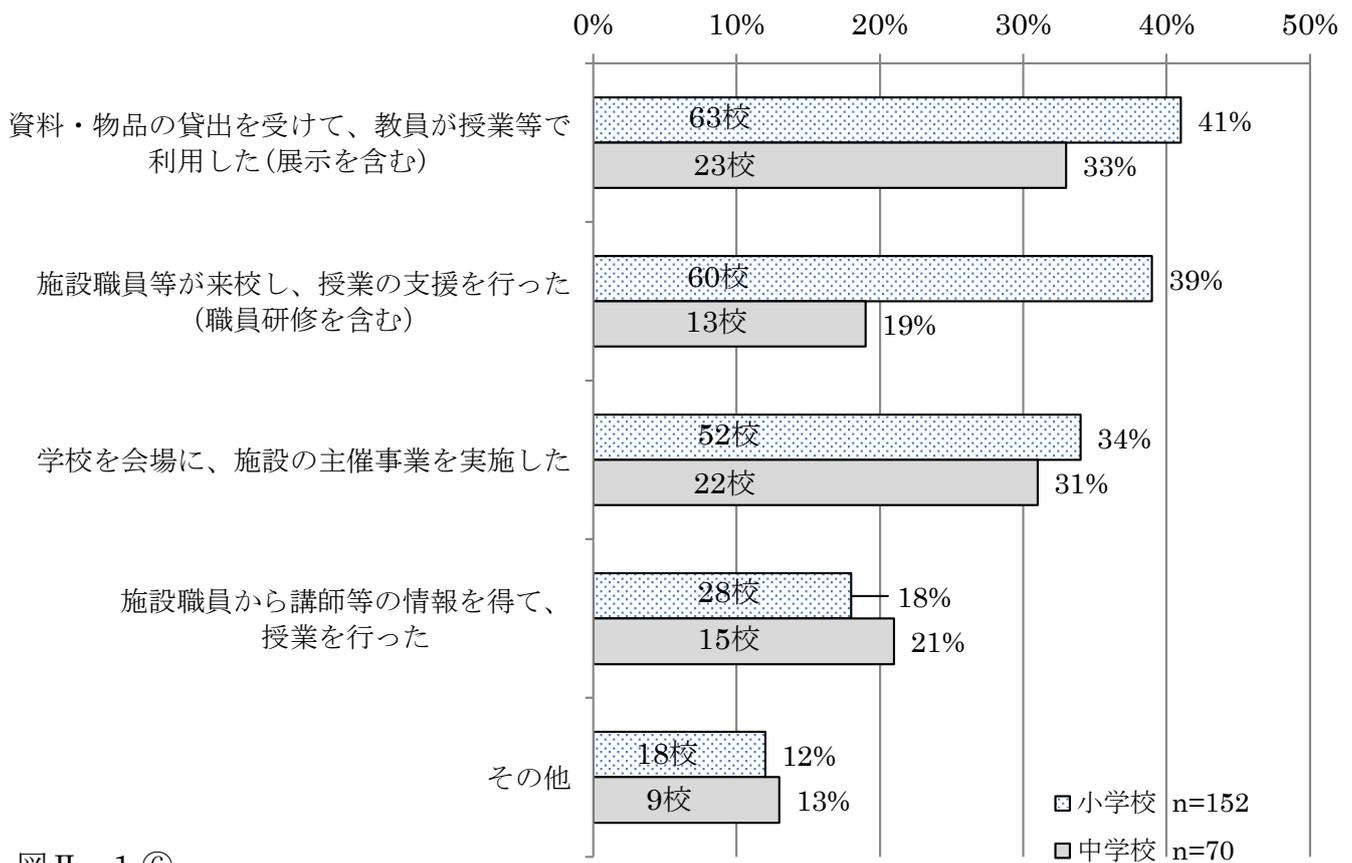
小学校では展示物や物品借用の利用が多いのに対し、中学校では職場体験の受入が多いのが特徴である。小・中学校ともに、教職員研修や自治会・PTA の会議等での会場借用が多い。学校だけでなく近隣の社会教育施設を会場にして、研修や会議が実施されていることが分かった。

② 学校内での利用形態



学校内での利用実施は、小学校 69%（152 校）、中学校 59%（70 校）であった。全体では、65%（222 校）の小・中学校が、学校内での利用を実施している。

学校内での利用形態（複数回答）



図Ⅱ-1-⑥

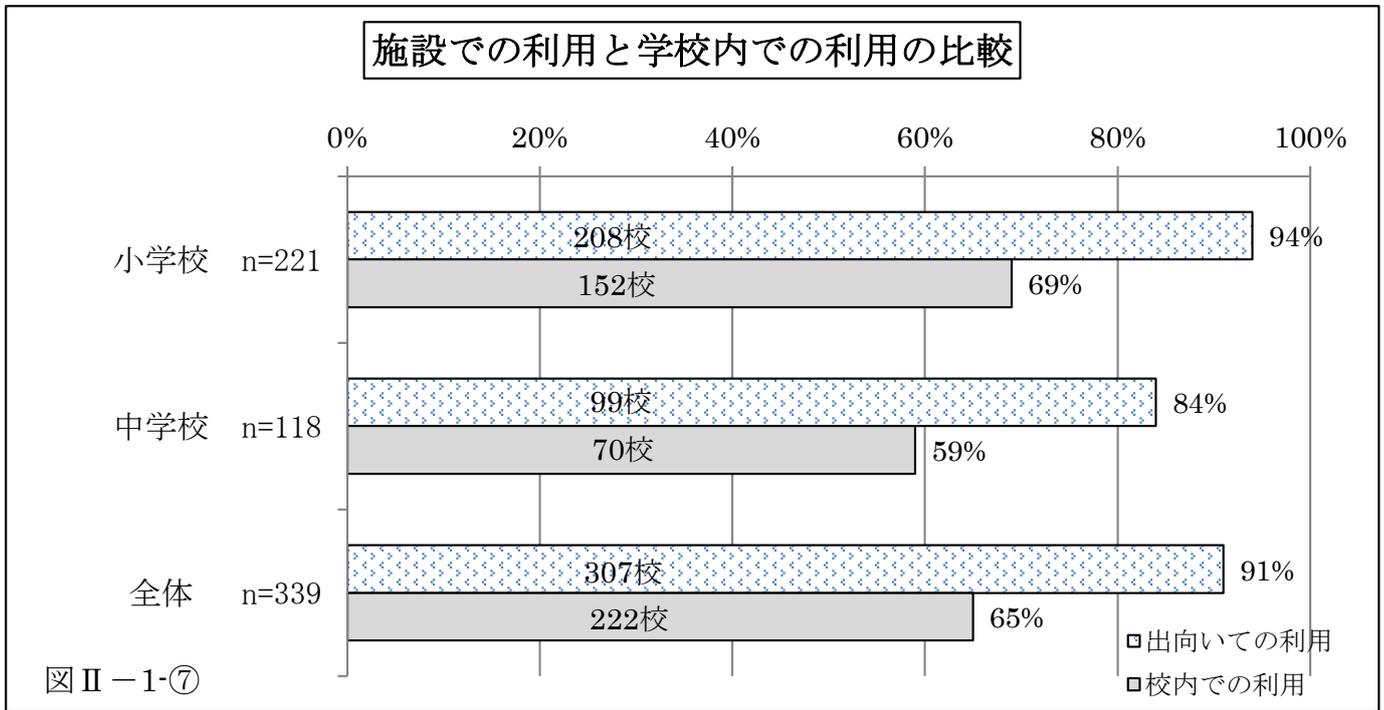
〔小学校〕 n = 152

事業内容としては「資料・物品の貸出を受けて、教員が授業等で利用した(展示を含む)」が最も多く 63 校 (41%)、次いで「施設職員が来校し、授業の支援を行った(職員研修を含む)」が 60 校 (39%) となっている。「学校を会場に施設の主催授業を実施した」は 52 校 (34%)、「施設職員から講師等の情報を得て、授業を行った」は 28 校 (18%) であった。「その他」としては、「空間放射線量測定器を借用し計測している」「巡回図書」「サークル活動で作った作品を校内に展示している」「図書館ボランティアが来校し、読み聞かせを行った」が挙げられている。

〔中学校〕 n = 70

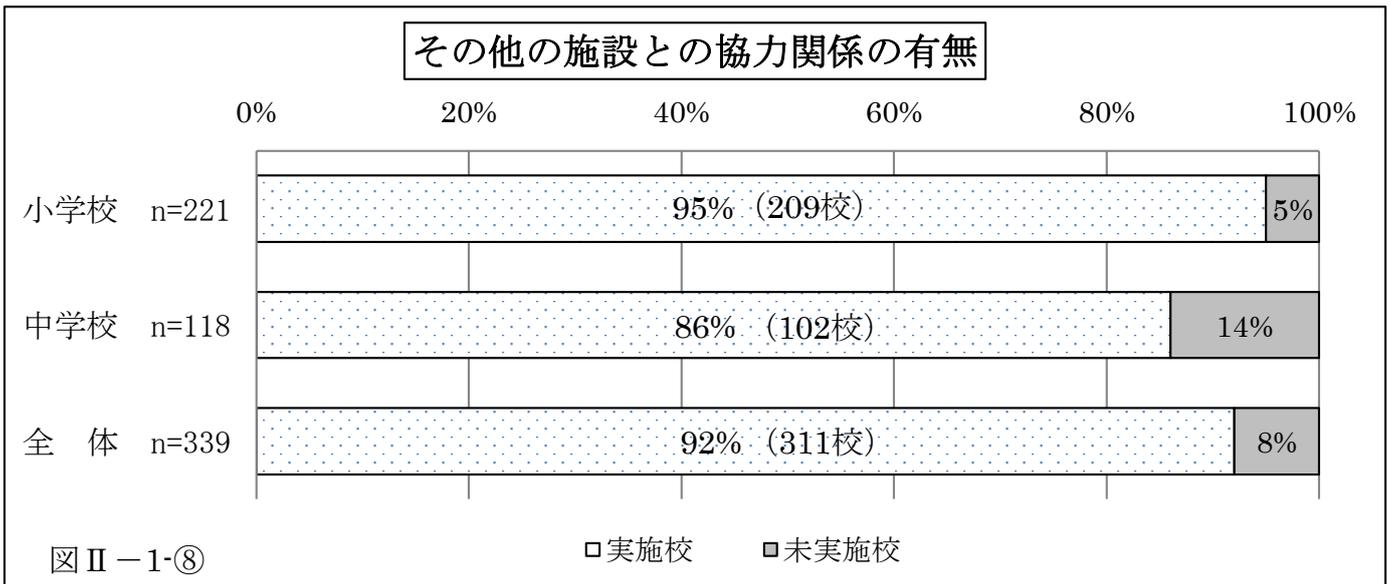
中学校では、「資料・物品の貸出を受けて、教員が授業等で利用した(展示を含む)」が最も多く 23 校 (33%)、次いで「学校を会場に、施設の主催授業を実施した」は 22 校 (31%) となっている。「施設職員から講師等の情報を得て、授業を行った」は 15 校 (21%)、「施設職員が来校し、授業の支援を行った(職員研修を含む)」は 13 校 (19%) であった。「その他」としては、「施設の活動を構内で PR した」「図書の団体貸出を受けて利用した」「移動図書」「地区の歴史についての創立記念講演会を行った」が挙げられた。

小・中学校と比較すると「学校を会場に施設の主催授業を実施した」の利用割合がどちらも多くなっている。また、小学校では施設の人的・物的支援を受けて授業を行っているのに対し、中学校では物的支援を授業に取り入れているが、人的支援はあまり取り入れていない傾向が見られた。その他として、「図書館ボランティアが来校し、読み聞かせを行った」や「サークル活動で作った作品を校内に展示している」「施設の活動を校内で PR した」などは、次の「各施設との関係」の内容項目にも含まれると思われるが、ここでは、回答数を変更せずそのまま取り扱うこととした。



小・中学校全体では、各社会教育施設に出向いての利用が 307 校 (91%) であったのに対し、学校内での利用の実施は 222 校 (65%) であった。各社会教育施設に出向いての利用と学校内での利用を比較すると、学校内での利用は、3 割ほど少なくなっている。施設に出向いての利用の方が多いのは、施設でしかできない活動が体験できることのほかに、近隣なので施設への移動手段の制約による影響が少ないためではないかと考える。

③ その他の施設との協力関係



その他の施設との協力関係の有無について、小学校 95% (209 校)、中学校 86% (102 校) から回答があった。全体では、92% (311 校) の小・中学校が、各施設に出向いての利用や学校内での利用以外に施設との協力関係を行っている。

その他の施設との協力関係の内容（複数回答）

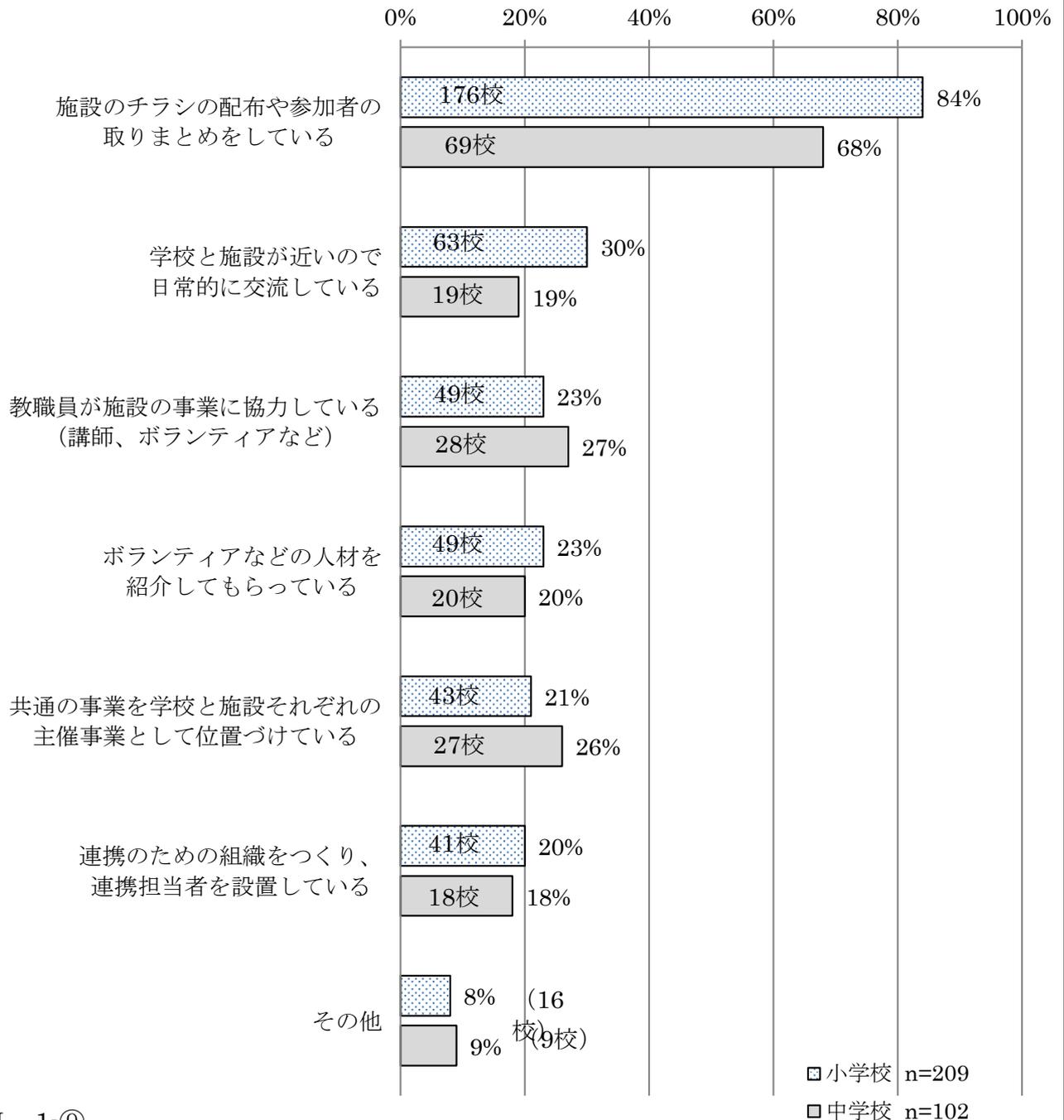


図 II - 1 - ⑨

〔小学校〕 n = 209

その他の施設との協力関係の内容では大半が「施設のチラシの配布や参加者の取りまとめ」で 176 校 (84%)、次いで「日常的に交流」が 63 校 (30%) となっている。「教職員が施設の事業に協力 (講師、ボランティアなど)」と「ボランティアなどの人材を紹介してもらっている」はどちらも 49 校 (23%) で、「共通の事業をそれぞれの主催事業として位置づけている」は 43 校 (21%)、「連携のための組織をつくり、連携担当者を設置している」は 41 校 (20%) であった。「その他」としては、「小学校と地区の共育の推進」「公民館での事業の際、児童の作品を展示した」「帰宅後、児童が訪れ自由に過ごす場所になっている」「近隣のため運動会等の保護者駐車場として利用」「公民館が地域住民の活動の事務局になっていて、連携している」「花いっぱい運動でプランターをもらっている」「地区の文化祭を 2 年に 1 度、体育館で実施している」が挙げられた。

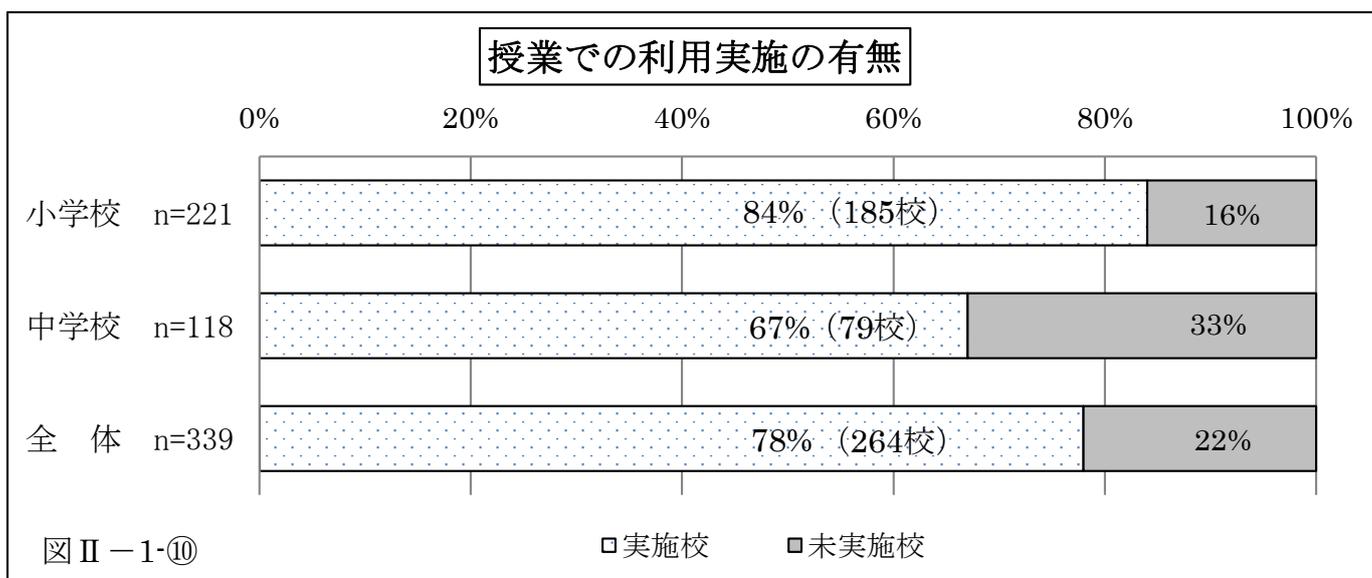
〔中学校〕 n = 102

中学校でも協力関係の内容の大半は「施設のチラシの配布や参加者の取りまとめ」で 69 校（68%）であった。「教職員が施設の事業に協力（講師、ボランティアなど）」が 28 校（27%）、「共通の事業をそれぞれの主催事業として位置づけている」が 27 校（26%）、「ボランティアなどの人材を紹介してもらっている」が 20 校（20%）、「日常的に交流」が 19 校（19%）、「連携のための組織をつくり、連携担当者を設置している」が 18 校（18%）と続いた。「その他」としては、「互いの事業時に駐車場を貸し借りしている」「学校からの便りの配布・回覧依頼」「職員・生徒が施設の除草作業に参加した」「公民館主催文化祭への生徒作品の出品」「地域の夏祭り・敬老会を公民館で実施する際、生徒の合唱を披露した」「自治会等各種団体の情報を得ている」「成人式の実施」が挙げられている。

小・中学校を比較すると「施設のチラシの配布や参加者の取りまとめ」の利用割合がどちらも多くなっていて、基本的には小・中学校の結果は似たものになっている。各施設がチラシ等の配布物を学校に依頼する際には、予め学年や学級の人数を聞いて、教職員に負担をかけないように仕分けをして持って行くようである。そうした、心遣いが、よりよい連携を生み出すための基盤となる関係づくりになっていると考えられる。

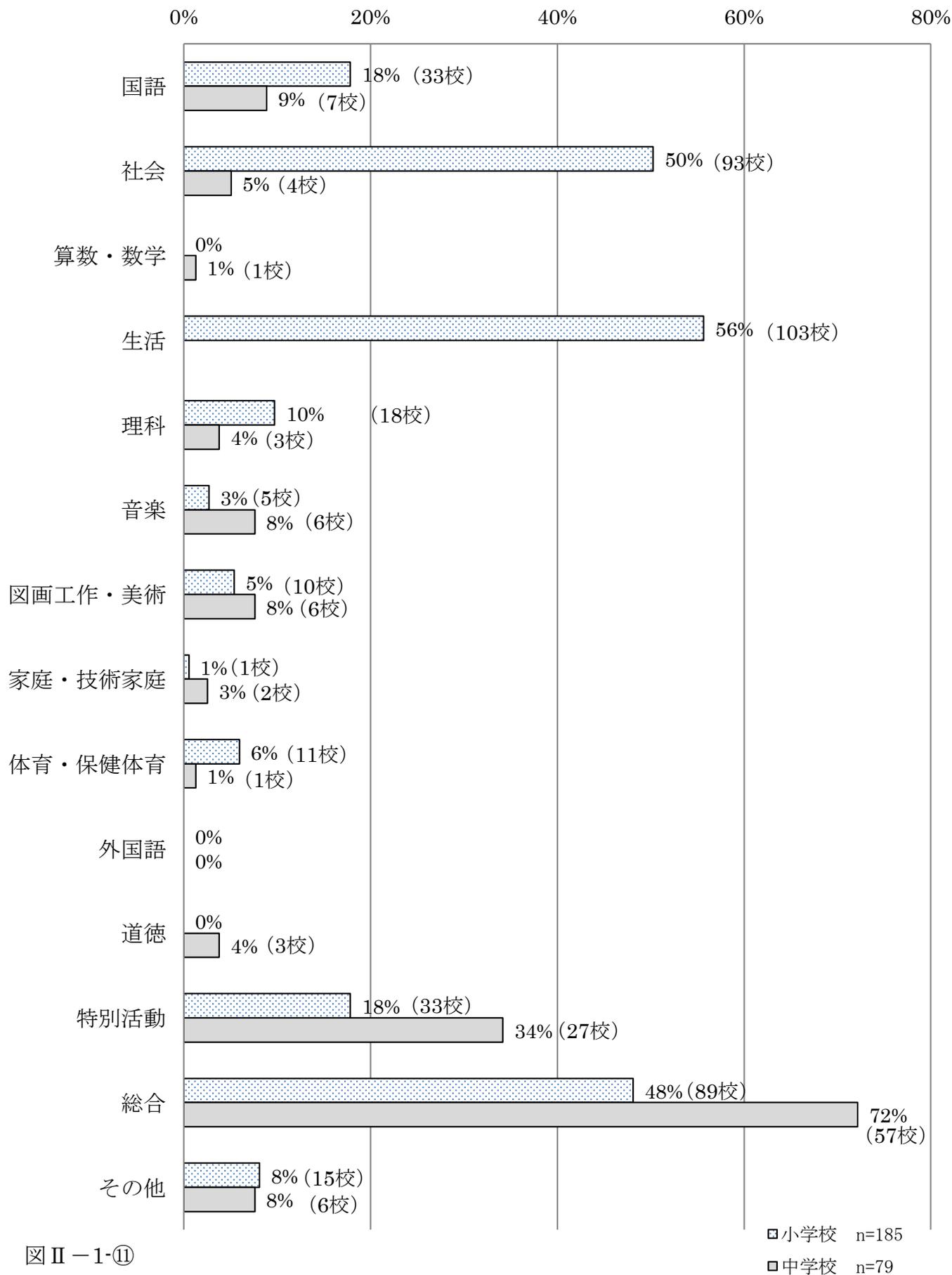
また、中学校から「学校が依頼するよりも施設から依頼されて協力する形が多く、職員や生徒がボランティアとして参加することが多い」との記述があり、「教職員が施設の事業に協力（講師、ボランティアなど）」の割合が、小学校に比べて少し高くなっている理由の一つとして考えられる。

問5 授業で利用したケースでは、どのような教科・領域で各施設を利用しましたか。また、その利用学年をすべて記入してください。



授業での利用実施の有無について、小学校 84%（185 校）、中学校 67%（79 校）から回答があった。全体では、78%（264 校）の小・中学校が、授業での利用実施を行っている。

教科領域別利用状況（複数回答）



図Ⅱ-1-⑪

〔小学校〕 n = 185

小学校では、利用教科等別に見ると、「生活」が最も多く 103 校 (56%)、次いで「社会」が 93 校 (50%) で、半数を超える学校が各施設と連携した授業を展開している。また、「総合的な学習の時間」が 89 校 (48%) になっており、見学等を中心に多くの学校で各施設と連携した授業が行われている様子がうかがわれる。以下、「国語」33 校 (18%)、「特別活動」33 校 (18%)、「理科」18 校 (10%)、「体育」11 校 (6%)、「図工」10 校 (5%)、「音楽」5 校 (3%)、「家庭」が 1 校 (1%) と続いた。「算数」「外国語」「道徳」の連携はなかった。一方、「その他」として、いずれの教科や領域で時数をカウントしたのかは不明であるが、「人権週間 (人権教育)」や「読書月間 (読書活動)」「地域交流会 (日本語教室)」「作業学習」が挙げられている。さらには「サマーチャレンジ」「宮っ子ステーション事業 (宇都宮市)」が挙げられたが、これらについては、業間や放課後、長期休業中等に実施された可能性も考えられる。

〔中学校〕 n = 79

中学校では、「総合的な学習の時間」での連携が 57 校 (72%) と圧倒的に多く、続いて「特別活動」27 校 (34%) になっている。以下「国語」7 校 (9%)、「音楽」「美術」6 校 (8%)、「社会」4 校 (5%)、「理科」「道徳」3 校 (4%)、「技術家庭」2 校 (3%)、「数学」「保健体育」1 校 (1%) と続き、「外国語」での連携はなかった。「その他」としては、「部活動」「朝の読書活動」「天文教室」「思春期講座」「料理体験」が挙げられた。

表Ⅱ-1-③ 教科別学年別利用率〔小学校〕 n=185

	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年	
	校数	割合										
国語	22	12%	23	12%	22	12%	20	11%	17	9%	18	10%
社会					64	35%	37	20%	12	6%	37	20%
算数	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
生活	31	17%	101	55%								
理科					12	6%	6	3%	3	2%	10	5%
音楽	0	0%	0	0%	1	1%	2	1%	4	2%	5	3%
図画工作	3	2%	3	2%	4	2%	5	3%	6	3%	7	4%
家庭									0	0%	1	1%
体育	8	4%	9	5%	10	5%	8	4%	9	5%	9	5%
外国語	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
道徳	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
特別活動	21	11%	21	11%	24	13%	31	17%	29	16%	29	16%
総合					49	26%	39	21%	27	15%	37	20%
その他	10	5%	8	4%	9	5%	8	4%	9	5%	8	4%

さらに学年別にみていくと、「特別活動」と「総合的な学習の時間」では、実施学年のすべてで利用率が 10% を上回り、「国語」も 5 年生の 9% を除いた他学年で 10% を上回っている。学年間で大きな差異が認められない「特別活動」の学校行事で連携する際には、学年ごとではなく学校全体で実施することなども理由の一つとして考えられる。また、学年教科別に見ると、2 年生「生活」の 101 校 (55%) が最も多くなっているが、1 年生の「生活」で連携している 31 校 (17%) の 3 倍以上となっているのは、近隣社会教育施設の見学が主に 2 年生で実施されているためと考えられる。「社会」でも 3 年生の利用が他の学年に比べて 1.7~5.3 倍と多くなっているが、同様に見学での利用が数値を押し上げているものと推定される。この 2 学年での利用により、利用教科別割合が「生活」と「社会」が上位 2 教科になっていると考えられる。

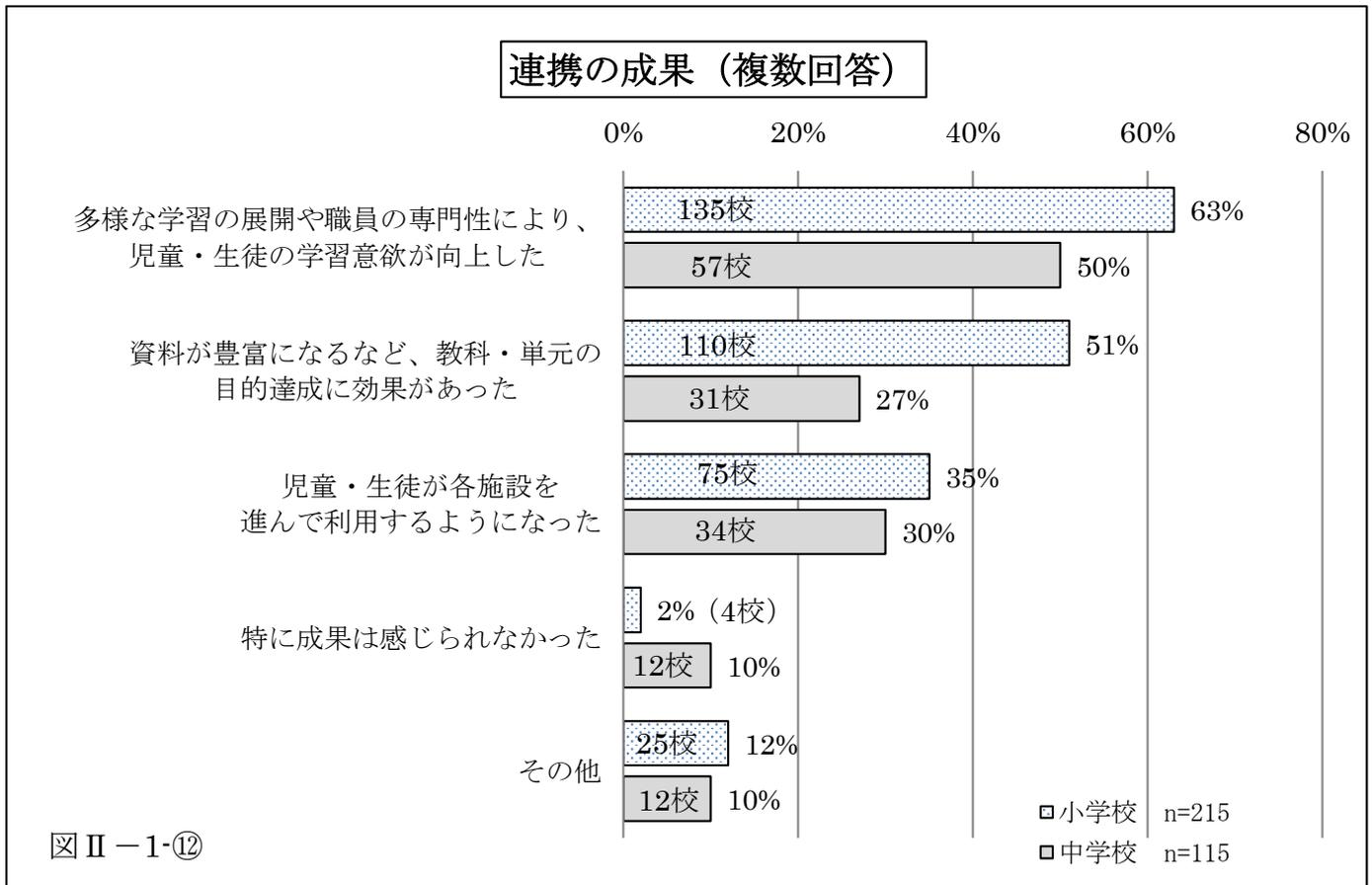
表Ⅱ－1-④ 教科別学年別利用率〔中学校〕 n=79

	1年		2年		3年	
	校数	割合	校数	割合	校数	割合
国語	4	5%	6	8%	5	6%
社会	2	3%	3	4%	4	5%
数学	0	0%	0	0%	1	1%
理科	1	1%	1	1%	3	4%
音楽	4	5%	5	6%	4	5%
美術	6	8%	3	4%	3	4%
技術家庭	2	3%	1	1%	0	0%
保健体育	1	1%	1	1%	1	1%
外国語	0	0%	0	0%	0	0%
道徳	3	4%	2	3%	2	3%
特別活動	21	27%	24	30%	18	23%
総合	29	37%	48	61%	23	29%
その他	5	6%	5	6%	5	6%

学年別に見ると、「総合的な学習の時間」では、2年生での連携が突出して多くなっているのが特徴である。2年生の学習で扱うテーマに社会教育施設との連携を必要とするような内容が集中した可能性も考えられるが、キャリア教育の一端として2年時に実施されるマイチャレンジ（職場体験・社会体験）との関連が深いことが想定される。

全体としては、「総合的な学習の時間」の利用が顕著であるが、これらは新学習指導要領の中で指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、具体的な社会教育施設の名称（公民館、図書館、博物館、美術館、郷土資料館など）や施設の活用、見学・調査、連携・協力といったことが記述されていて、各学校ではこうした内容に配慮して指導計画を作成し、実施している結果と考えられる。

問6 各施設を利用することにより、教育活動の成果があったと思いますか。(複数回答可)



[小学校] n = 215

連携事業を実施していると回答のあった 221 校のうち、215 校 (97%) の小学校から回答があった。

最も多かったのは、「多様な学習の展開や職員の専門性により、児童・生徒の学習意欲が向上した」で 135 校 (63%)、次に「資料が豊富になるなど、教科・単元の目的達成に効果があった」で 110 校 (51%)、「児童・生徒が各施設を進んで利用するようになった」の 75 校 (35%) でそれに続いた。

中学校と比較すると、「多様な学習の展開や職員の専門性により、学習意欲が向上した」や「資料が豊富になるなど、教科・単元の目的達成に効果があった」という回答が多いのが特徴である。「その他」として、「生活科の学習が深まった」「2,3年生の学習としての利用目的は果たせた」「本に親しみ読書量が増えた」「教科書から離れて実際に見学したり体験したりすることで学習効果が上がった」「いろいろな催しに参加し、豊かな体験ができた」「体験的な活動の機会が増えた」「地域に根付いた学習活動が展開でき、郷土を愛する心が育った」「地域の人々に対する感謝の気持ちが高まる等、児童は地域に対して目を向けるようになっている」「地域への関心が高まった」「地域の一員であることを感じる事ができた」「地域の方々との交流が図れた」とした児童の学習や地域への興味・関心・意欲づけに効果が上がったという回答や、それに伴って「児童が学校の近くに公民館があることを確認できた」「施設を知るよい機会となっている」「地域にある施設への興味・関心が高まり理解が深まった」とした、実際に児童の社会教育施設の利用や施設への関心・理解の増加につながったという回答も見られた。さらに、「機材の充実が行事の充実につながった」「部活の練習の充実が図られた」「本校の部活動を広く地域の方に発信する場となった」「児童の健全育成に役立っている」とした多くの成果が挙げられた。

「特に成果は感じられなかった」が 4 校 (2%) あった。また、「その他」の欄には「近隣には教育活動として利用している施設がない」「チラシ配布のみの協力のため」との記述があった。

[中学校] n = 115

連携事業を実施している 118 校のうち、115 校（97%）から回答があった。

その中では「多様な学習の展開や職員の専門性により、児童・生徒の学習意欲が向上した」が 57 校（50%）と最も多く、「児童・生徒が各施設を進んで利用するようになった」34 校（30%）、「資料が豊富になるなど、教科・単元の目的達成に効果があった」31 校（27%）の順となった。

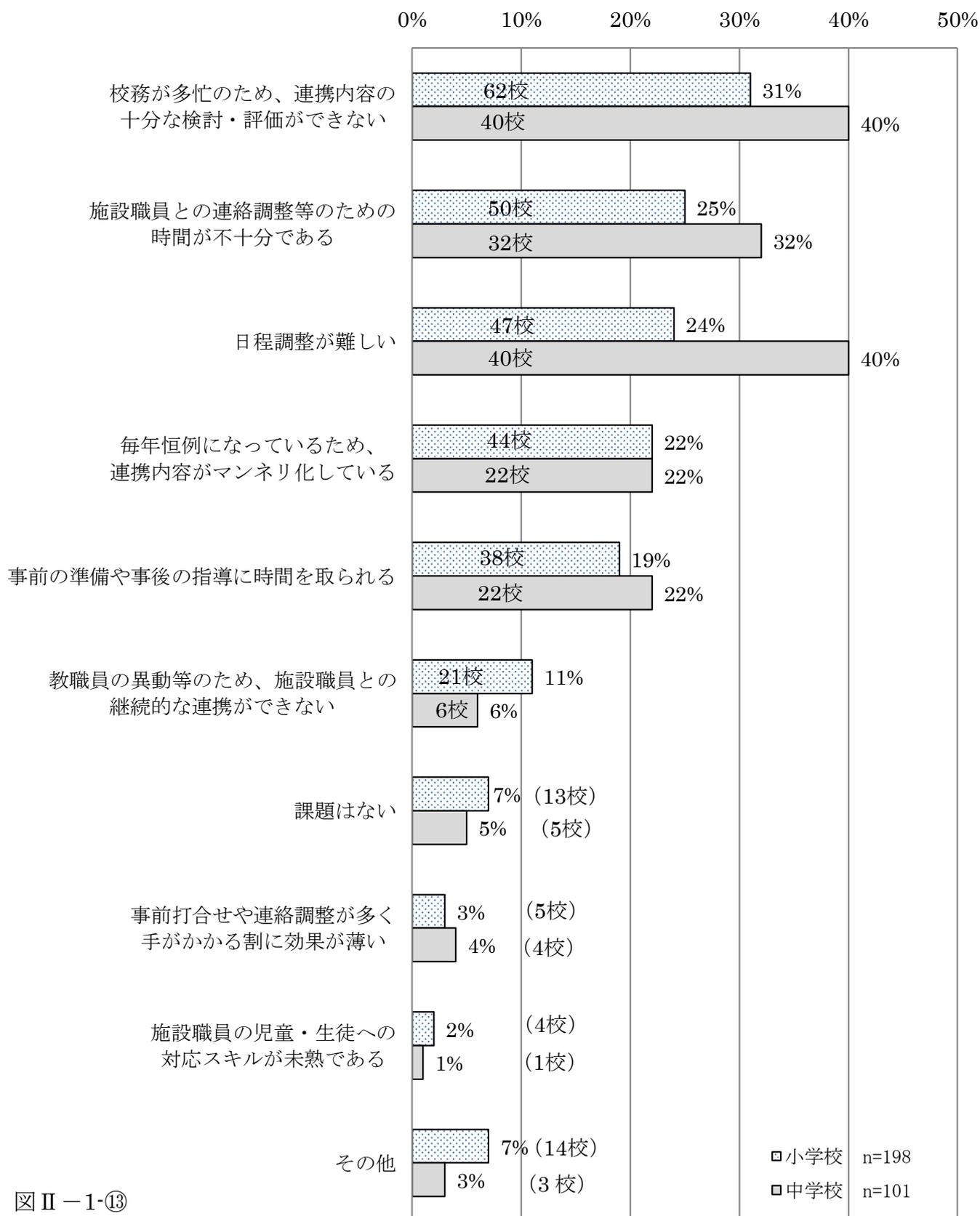
一番多かったのは小学校と同じ「多様な学習の展開や職員の専門性により、児童・生徒の学習意欲が向上した」になっており、続く「児童・生徒が各施設を進んで利用するようになった」は小学校より割合は下がっているものの、2 番目になっている。その他としては「地域理解が深まった」「地域の方々との交流が深まる」「地域との連携が強化された」「施設が事務局を担当する地域団体の主催事業への参加に教育的効果が見られた」「町内懇談会を通して、地域と学校が連携を図る場になった」が見られた。また、「地域の一員としての自覚が高まった」「『リーダー講習会』に参加して、自覚が育ち始めている」「各行事に積極的に参加するようになった」「コミュニティセンターの自習室を利用する生徒が増えた」とした生徒の変容や「体験学習、地域行事の準備・運営を学べた」「小・中教員の連携が図られた」のように教員側にもたらされるメリットなど、小学校と概ね一致する内容の回答が得られた。

中学校では「特に成果は感じられなかった」が 12 校（10%）あった。

社会教育施設を利用する教育的効果について、小・中がほぼ同じ傾向を示した。多様な学習の展開や職員の専門性により児童生徒の学習意欲の向上に効果を発揮すると捉えることが出来る。また、学習意欲の向上や地域理解や地域の一員としての自覚が高まるなどの児童生徒の変容についての効果については、後述する連携の必要性に関する結果と深く関係し、その上位 3 つの項目「地域に愛着をもった児童・生徒を増やすため」「児童・生徒の興味関心に応じた学習を展開するため」「開かれた学校づくりを推進するため」と一致している点が興味深い。

問7 各施設の利用にあたっての課題は、どのようなことですか。(複数回答可)

連携の課題 (複数回答)



図Ⅱ-1-⑬

〔小学校〕 n = 198

連携事業を実施している 221 校中、198 校（90%）から回答を得た。

「校務が多忙のため、連携内容の十分な検討・評価ができない」が最も多く 62 校（31%）で、以下「施設職員との連絡調整等のための時間が不十分である」が 50 校（25%）、「日程調整が難しい」が 47 校（24%）、「毎年恒例になっているため、連携内容がマンネリ化している」が 44 校（22%）、「事前の準備や事後の指導に時間を取られる」が 38 校（19%）、「教職員の異動等のため、施設職員との継続的な連携ができない」が 21 校（11%）、「課題はない」が 13 校（7%）、「事前打合せや連絡調整が多く手がかかる割に効果が薄い」が 5 校（3%）、「施設職員の児童・生徒への対応スキルが未熟である」4 校（2%）という順であった。また、「その他」として「児童数が多いので施設の利用が難しい」「同日に複数の施設利用の際、日程調整が難しい」「事業または担当者により、学校に丸投げになりがちが多い」「公民館が学校教育を行う上で魅力ある施設となっていない」「近隣により施設が無く、遠方の施設を利用している」「教師側の教材研究の必要性」「職員全体に周知することが難しい」「学習に生かすような連携がまだとれていない」「移動手段が限られる」「徒歩のため往復の時間がかかる」「距離が離れているため交流・連携が難しい」とした回答があった。

〔中学校〕 n = 101

連携事業を実施している 118 校中、101 校（86%）から回答を得た。

中学校では「校務が多忙のため、連携内容の十分な検討・評価ができない」と「日程調整が難しい」が同数の 40 校（40%）で一番多く、続いて「施設職員との連絡調整等のための時間が不十分である」が 32 校（32%）、「毎年恒例になっているため、連携内容がマンネリ化している」と「事前の準備や事後の指導に時間を取られる」が 22 校（22%）、「教職員の異動等のため、施設職員との継続的な連携ができない」が 6 校（6%）、「課題はない」が 5 校（5%）、「事前打合せや連絡調整が多く手がかかる割に効果が薄い」が 4 校（4%）、「施設職員の児童・生徒への対応スキルが未熟である」1 校（1%）という順であった。また、「その他」として、「施設利用料が高い」「行事や部活動等との調整が課題である」「効果をあげるための連携内容に工夫が必要」「生涯学習に対する意識の違い」とした回答があった。

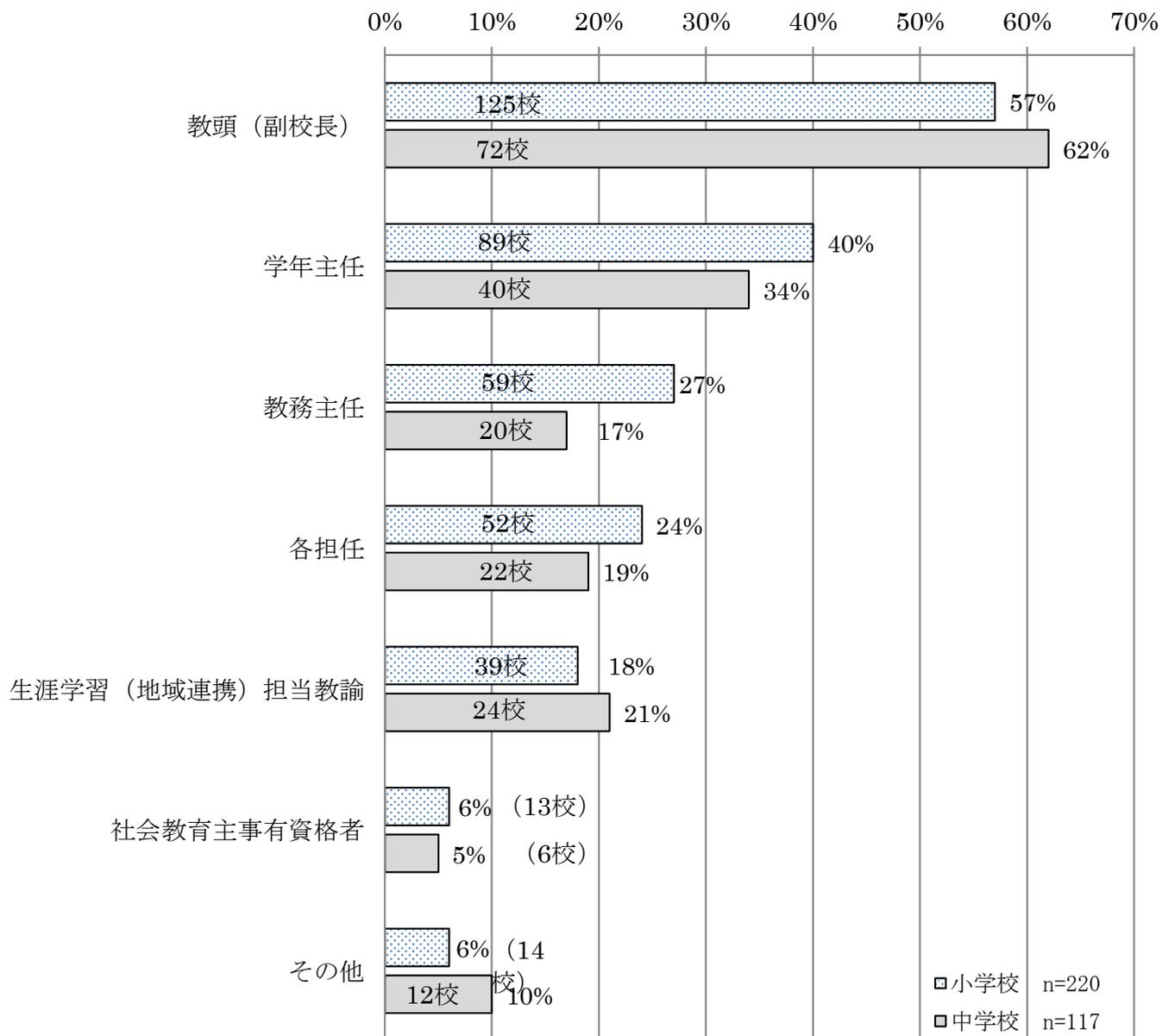
全体として最も大きな課題は「連携内容の十分な検討・評価ができない」ことであり、その原因には教員の多忙な状況による時間不足が挙げられる。そのことが、学校側の要望と実施内容が合わない状況に影響を与えているとも考えられる。しかし、「事前打合せや連絡調整が多く手がかかる割に効果が薄い」という回答はごく少数であることから、連携のもたらす効果や有効性そのものについては十分に認識していることがうかがえる。

また、「日程調整」については、小学校と中学校では大きな差があるが、それは中学校が教科担任制のため、授業の入れ替えが難しいことが理由として考えられる。日程調整の際に「月曜日は休館日なのに、学校の都合に合わせて開館してくれた」との施設側の対応に感謝した記述もあった。

さらに、小学校においては、近隣の施設との連携でも移動手段が徒歩のため時間がかかってしまうことが、社会教育施設を利用する上での課題になっていることが明らかとなった。

問8 各施設の利用にあたっての、校内の組織・体制について、お答えください。(複数回答可)

連携の窓口担当者(複数回答)



図Ⅱ-1-⑭

[小学校] n = 220

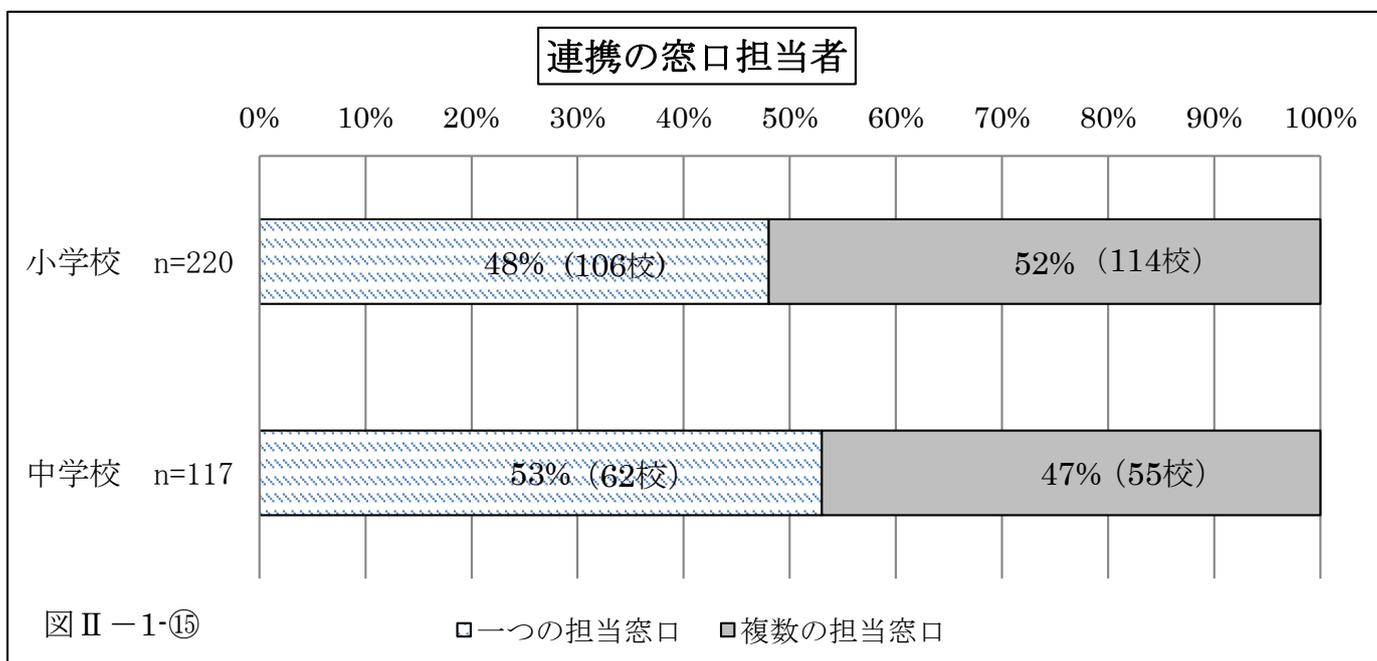
連携事業を実施している 221 校中、220 校から回答を得た。

「教頭 (副校長)」が 125 校 (57%) で最も多く、以下「学年主任」89 校 (40%)、「教務主任」が 59 校 (27%)、「各担任」が 52 校 (24%)、「生涯学習 (地域連携) 担当教諭」39 校 (18%)、「社会教育主事有資格者」13 校 (6%) と続いている。「その他」としては、「図書館教育主任 (図書支援員) (図書事務員) (図書館教育担当者)」「図工主任」「体育主任」「ふるさと学習担当教諭」「地域科担当」「PTA ボランティア」「教頭が窓口になり、その後各教科主任が対応」「その時の担当者」の回答があった。

〔中学校〕 n = 117

連携事業を実施している 118 校中、中学校においては 117 校から回答があった。

「教頭（副校長）」が 72 校（62%）で最も多く、以下「学年主任」40 校（34%）、「生涯学習（地域連携）担当教諭」が 24 校（21%）、「各担任」が 22 校（19%）、「教務主任」20 校（17%）、「社会教育主事有資格者」6 校（5%）と続いている。「その他」としては、「部活動担当者」「図書館担当教師（町職員の主任司書）（図書館司書）」「美術科教師」「人権教育主任」「学校支援ボランティア担当教諭」「生徒会ボランティア委員担当教員」「内容によって担当が変わる」「各担当者」「町内懇談会の場合は保護者が連絡をとっている」とした回答があった。また、小学校との違いとして「部活動担当者」が施設との連携の窓口を務めるケースも見られた。

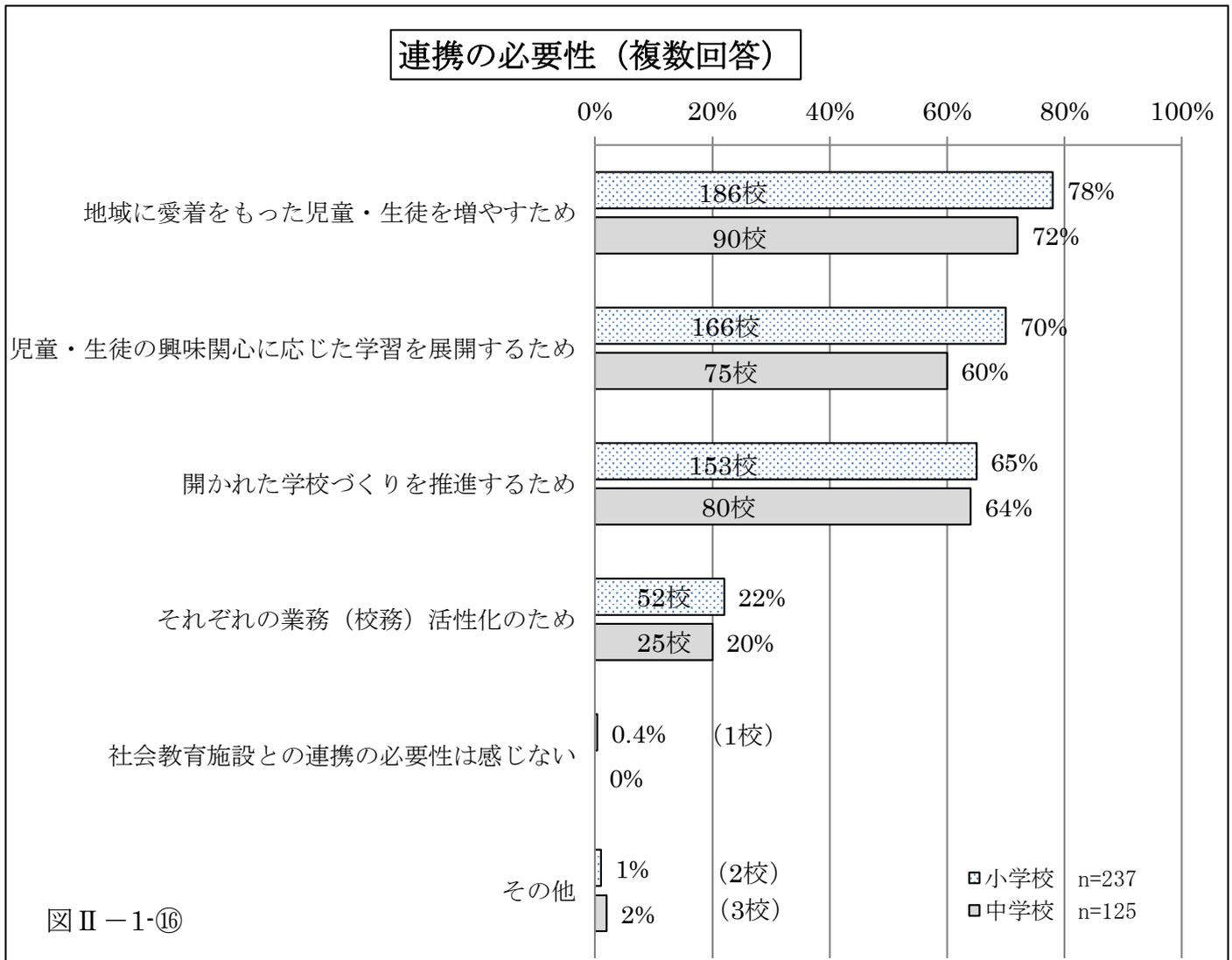


小学校では、連携の窓口を複数で担当するケースが 114 校（52%）となっており、一つの担当窓口の 106 校（48%）より若干多いが、その割合はほぼ半々である。中学校はその逆で、一つの窓口で担当するケースが 62 校（53%）で、複数の担当窓口の 55 校（47%）より少し多いが、その割合は小学校と同じようにほぼ半々になっている。

また、複数の窓口で担当する場合をしてみると、小学校で一番多い組み合わせは、「教頭（副校長）と学年主任」が 18 校、次に「教頭（副校長）と教務主任」13 校、「教頭（副校長）と担任」が 11 校であった。さらに、3つの窓口で担当している学校もあり「教頭（副校長）と教務主任と学年主任」「教頭（副校長）と教務主任と担任」がそれぞれ 7 校ずつあった。中学校をしてみると、小学校と同じく「教頭（副校長）と学年主任」が 11 校あり一番多く、続いて「教頭（副校長）と生涯学習（地域連携）担当教諭」が 6 校あった。

以上の結果から見ると、多くの場合、各施設の利用にあたり窓口になっているのは、教頭（副校長）が一番多く、複数の窓口で担当する場合も教頭（副校長）が入っている場合が多いことが確認できた。また、段階を追って「教頭が窓口になり、その後各教科主任が対応」というようなケースも挙げられた。学校の規模や連携の内容により窓口が必ずしも一本化されず「内容によって担当が変わる」「その時の担当者」という実態も垣間見られた。

問9 学校と各施設との連携の必要性について、お答えください。（複数回答可）



〔小学校〕 n = 237

アンケートを回収できた 239 校中、237 校（99%）から回答を得た。

「地域に愛着をもった児童・生徒を増やすため」が最も多く 186 校（78%）であった。次いで「児童・生徒の興味関心に応じた学習を展開するため」が 166 校（70%）、「開かれた学校づくりを推進するため」が 153 校（65%）、「それぞれの業務（校務）活性化のため」が 52 校（22%）、「連携の必要性は感じない」が 1 校（0.4%）となっている。「その他」として、「行事の充実」「メリットとデメリットをはかりにかけるとデメリット（人的配置不足や勤務時間の制約）の方が大きい」「近隣には教育活動として利用している施設がない」「チラシ配布のみの協力のため」との回答があった。

〔中学校〕 n = 125

アンケートを回収できた 126 校中、125 校（99%）から回答を得た。

「地域に愛着をもった児童・生徒を増やすため」が最も多く 90 校（72%）であった。次いで「開かれた学校づくりを推進するため」が 80 校（64%）、「児童・生徒の興味関心に応じた学習を展開するため」が 75 校（60%）、「それぞれの業務（校務）活性化のため」が 25 校（20%）、「連携の必要性は感じない」はなかった。「その他」としては、「良書や優れた美術作品や貴重な文化遺産を直に鑑賞することは豊かな人間性の育成に資するから」「施設・備品の賃借」「地域として生徒の教育に関わりをもってもらう窓口として必要」といった意見も挙げられ、社会教育施設を「地域との連携の拠点」と捉えている意見も見られた。

学校にとって、連携の必要性は、「児童・生徒の興味関心に応じた学習を展開するため」とする児童・生徒の学習に関する必要性のみならず、「地域に愛着をもった児童・生徒を増やすため」や「開かれた学校づくりを推進するため」など児童・生徒のふるさとへの愛着と誇りを養うとともに、地域の一員としての自覚を身につけた人間性・社会性を育むことに重点が置かれているためと考えられる。

問 10 近隣に社会教育施設があることの利点について、お答えください。(複数回答可)

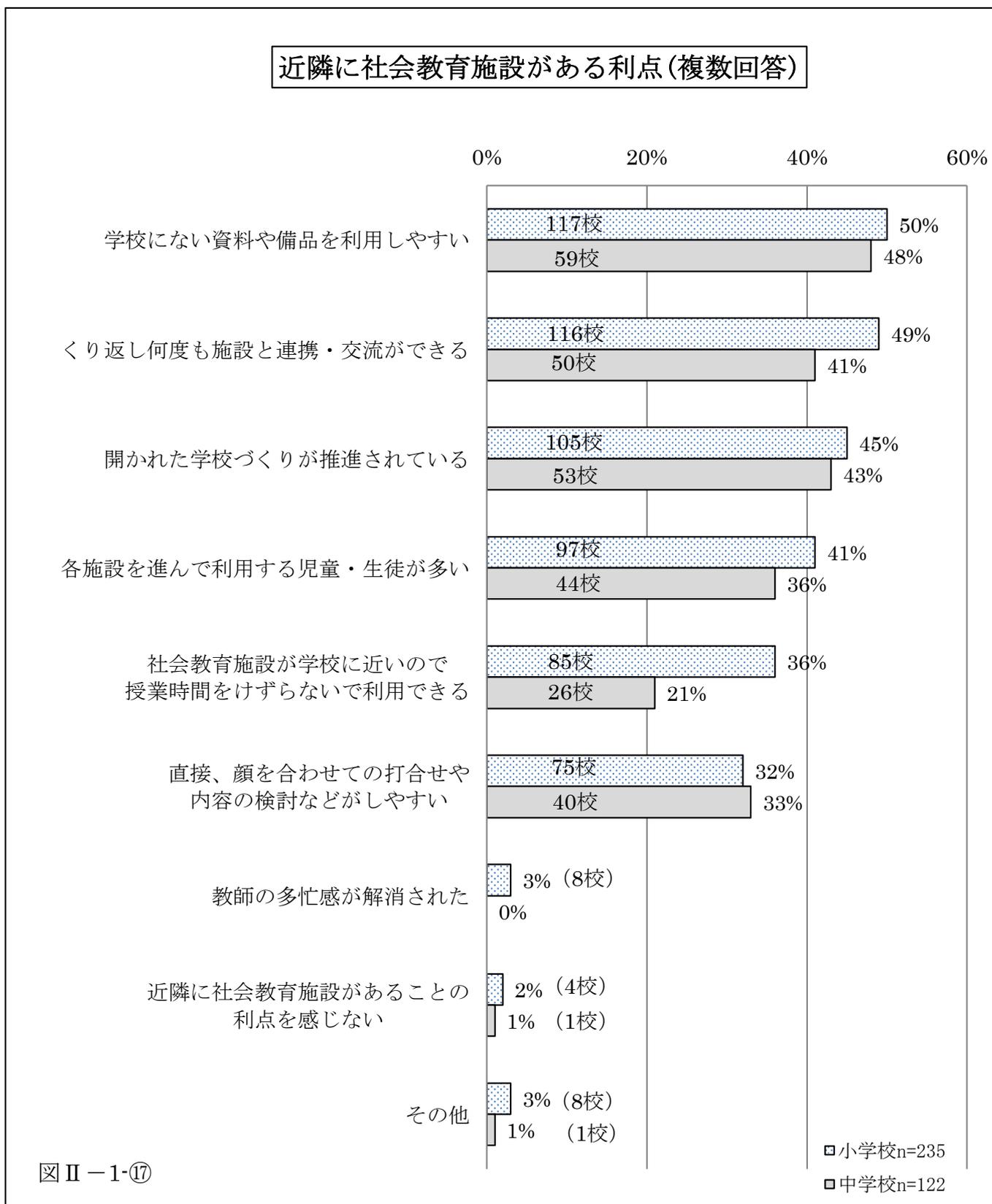


図 II - 1-⑰

〔小学校〕 n = 235

アンケートを回収できた 239 校中、235 校（98%）から回答を得た。

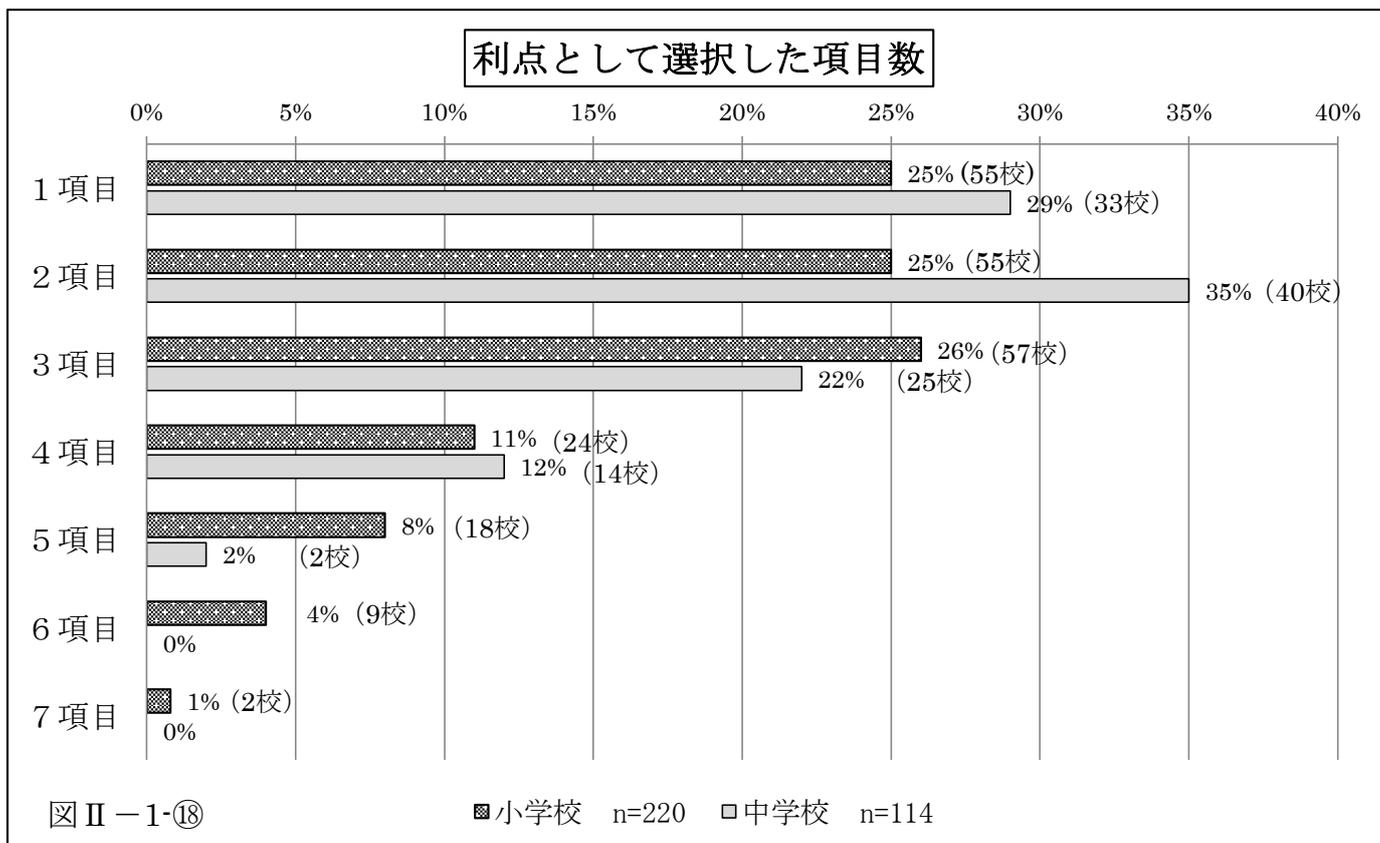
「学校にない資料や備品を利用しやすい」が 117 校（50%）と最も多く、以下「くり返し何度も施設と連携・交流ができる」が 116 校（49%）、「開かれた学校づくりが推進されている」が 105 校（45%）、「各施設を進んで利用する児童・生徒が多い」が 97 校（41%）、「社会教育施設が学校に近いので授業時間をけずらないで利用できる」が 85 校（36%）、「直接、顔を合わせての打合せや内容の検討などがしやすい」75 校（32%）、「教師の多忙感が解消された」が 8 校（3%）、「近隣に社会教育施設があることの利点を感じない」が 4 校（2%）と続いている。

「その他」としては、「学校では体験できない活動が期待できる」「公園などが無い地域なので、子どもが集まれる貴重な場所になっている」「地域の人材などを紹介していただける」「実際に水鳥や野鳥を観察することで、身近にある自然にふれることができる」「学校でやっていないスポーツが体験できる」「近隣には公民館が 1 つあるのみ」「実際に利用したことがないので利点を正しく捉えられない」が挙げられている。

〔中学校〕 n = 122

アンケートを回収できた 126 校中、122 校（97%）から回答を得た。

最も多かったのは「学校にない資料や備品を利用しやすい」で 59 校（48%）であった。次いで「開かれた学校づくりが推進されている」が 53 校（43%）、「くり返し何度も施設と連携・交流ができる」が 50 校（41%）、「各施設を進んで利用する児童・生徒が多い」が 44 校（36%）、「直接、顔を合わせての打合せや内容の検討などがしやすい」40 校（33%）、「社会教育施設が学校に近いので授業時間をけずらないで利用できる」が 26 校（21%）、「近隣に社会教育施設があることの利点を感じない」が 1 校（1%）の順となっており、「教師の多忙感が解消された」の回答はなかった。「その他」としては、「教育目標を達成しやすいから」が挙げられている。



近隣に社会教育施設がある利点について、1つの項目を選んだ小学校は 55 校（25%）、中学校は 33 校（29%）あり、中には 4 項目以上に利点があると回答した小学校が計 53 校（24%）、中学校は計 16 校（14%）あった。これらの回答を見ても学校では概ね社会教育施設との連携を肯定的に見ており、一定程度の効果も上がっていると考えていることがうかがえる。

問 11 社会教育施設を利用したの感想や要望等を自由に御記入ください。

自由記述を学校種・内容等別に記載する。

[小学校]

① 社会教育施設側が提供してくれるサービスに関するもの

- ・敷地内にコミュニティセンターや市総合型地域スポーツクラブが併設されているので連携もしやすく、これらの施設にいろいろな面で学校を支援してもらっている。特に、備品等はお互いに借用できるので、とても便利だと思う。
- ・毎年、2年生の生活科「町たんけん」でコミュニティセンターに協力していただき、感謝している。
- ・卒業式を行うにあたり、文化会館を利用することができたことは大変ありがたかった。
- ・市立図書館と隣接して歴史民族資料館があるため、利用しやすい。2年生が図書館を利用した際に資料館と県立博物館の共催で企画展をやっていて大変良かった。

【本校の1年生の人数が100人前後と多いため、時間の調整が大変である。】

- ・各施設とも学校の教育活動について理解し協力をいただき、大変ありがたく思っている。
- ・地域を知る上で、2年生の生活科「町たんけん」では、公民館長さんから地区の歴史を直接聞くことができ、とても役に立った。
- ・学校行事のハード面の充実について大いにありがたい。
- ・学校としてはPTAや青少年健全育成連絡会の会議などで利用しているがエアコンがついていて、夜の戸締まりに気を遣わないなど利便性の高い施設と考えている。
- ・学校と公民館が近く、6年生の茶道体験では公民館の畳の部屋を使用し、学校ではできない経験をすることができた。公民館主催の活動にたくさんの児童が参加している。
- ・地区の公民館は公民館主催の事業に楽しく参加しているため、子どもたちにとって、身近な公共施設となっている。生活科や総合的な学習の地域学習で協力をいただいたり、講師の先生を紹介していただいたり支援していただいているので、今後も連携を深めていきたいと思う。
- ・歴史のある自分たちの学区を知るよい機会（施設）になっている。定期的に図書館からの本の貸出しがあり、授業で活用したり、興味のある本を読んだりすることができる。
- ・町の図書館から、本が定期的に各学級に届くので、子どもたちが様々な本に親しめる。
- ・2年生活科「町たんけん」の学習では、毎年公民館の見学等させていただきありがたい。
- ・博物館等の施設職員の話が聞け、児童の学習意欲が向上し、移動図書館の本を子どもたちがたくさん借りられ、多くの本を読むことができ大変ありがたい。
- ・公民館を利用しているが、学習に必要な地域の人材の紹介や、地域の各種団体との連絡・調整をしてくれて、総合的な学習の時間の学習活動等が充実している。

② 社会教育施設職員の対応に関するもの

- ・事前の打合せが丁寧である。授業の趣旨にそった指導を行ってくれる。児童への興味・関心を高めてくれる。
- ・児童の見学等快く受け入れてくれて感謝している。図書館に本の要望をするとすぐに届けてくれるので、授業で活用しやすい。
- ・資料館の職員の方が協力的であり、大変助かっている。授業を展開する上で有効である。
- ・授業で使用したい本をすぐ用意したり、読み聞かせボランティアを紹介したりしてもらえるので、とても助かっている（図書館）。

- ・生涯学習課に相談すると、講師の紹介や必要な教材の準備物の手配などアドバイスや協力をいただけるので大変ありがたい。また、授業当日も活動の様子を見に来てくれるなど、お世話になっている。
- ・各施設が協力的で親切に対応してくれるので、とても感謝している。
- ・専門知識を丁寧に教えてくれる。
- ・専門的な立場ですばらしい資料を使い、大変勉強になるお話が聞けてとても充実した授業になっている。

③ 連携の効果に関するもの

- ・地域の方々とふれあう機会が増えた。
- ・コミュニティセンターで行われる地域の会議に参加すると他の団体も活動していることが多く、地域の様々な立場の方とつながりをもつことができる。学校関係は使用料が減免になっているので、利用の機会も多くなり、そのことが学校と地域の方が同じ場所で活動する機会を増やし、両者の距離を縮めることにつながっている。
- ・専門的知識をうかがい、実物を見て、体験できることは大変有効だと感じる。
- ・資料館を利用することにより、地域にある自然や史跡のすばらしさを理解することができ、地域への愛着をもつことができた。
- ・近くに市立図書館があり、生活科や総合的な学習等で利用した。学習をきっかけとして自主学習や調べ学習をするために、放課後図書館を利用する児童が増えている。
- ・隣に公民館があるので、備品等を借りて活用しやすい状況である。また、毎日職員同士が顔を合わせやすく、連絡調整もしやすい。また、公民館の管理している町民プールを平日は、体育の授業で活用できるのも非常にありがたい状況である。また、足尾歴史館等、地元の施設を活用することによって児童自身に郷土に対する愛情や誇りを育てることができる。
- ・地域の人材活用や資料等の活用による教材の開発化に役立っている。今後も連携・活用を図っていきたい。
- ・近くにある「二宮尊徳資料館」や「真岡市歴史資料保存館」での学習は児童にも好評で、明らかに学習意欲の向上等の効果が見られた。また、急速な生活様式の変化により、地方でも一昔前の生活を知ることは難しくなっており、資料館の存在意義は大きいと考えられる。
- ・見学・説明から児童の興味・関心が高まった。
- ・学校にはない豊富な資料等があるため、子どもたちの意欲は向上し、学習効果は上がる。
- ・地域を知るための一助となっている。
- ・社会教育施設（公民館・図書館・資料館）の職員が、子どもたちに分かりやすく説明してくれて、子どもたちは、「みんなが住みよい町」になるための人々の努力や工夫を知り、郷土愛を深めることができた。
- ・机上の学習と異なり、実際に施設を訪問し、見て、聞いて、触れる等の学習をすることで、児童の学習が深まる。
- ・6年歴史学習、3年昆虫教室、6年天文教室、3年郷土学習等の小山市立博物館関係の授業はとても有意義で効果的である。
- ・社会教育施設を効果的に活用することにより、教育の幅を広げたり、児童の興味・関心に応じた学習を展開したりすることができると思う。
- ・学区内に下野国庁跡があり、社会科の見学や図工の写生会で活用している。子どもたちが地域を知ることができ、また意欲的に学習を進めるのに役立っている。
- ・社会教育施設を利用することは、地域の自然や文化などに触れることができる。また、様々な年齢層の方々との交流を通し、言語力の育成、人間関係の醸成にも効果があると思う。こうした利点を有効に活用するためには、社会教育施設でどのような催しを実施していけるのかを知り、それをどのように教育課程の中に取り入れていくかを意図的に行っていく必要がある。

- ・直接施設に携わっている方の話を聞くことができたり、資料を提出していただいたりするので、児童の興味・関心が高い。
- ・町図書館が各教室に貸し出している図書のおかげで児童の読書の幅が広がり調べ学習にも役立っている。
- ・学習の場が変わる（学校の外に出る）ということで、児童の興味・関心は大きく変わる。その意味でも社会教育施設を利用することは学習効果を高めてくれるので、できるだけ多くの機会に活用したいと思う。
- ・学校と社会教育施設の連携・交流はそれぞれの業務の活性化につながると感じている。
- ・社会教育施設を利用した活動では多くの利点があるので、今後もっと多くの活動を連携して実施していきたい。
- ・学校内だけではできない活動をしたり、絵画を鑑賞したりする機会を得ることができてよいことだと思う。
- ・博物館利用では、学校にない資料や道具を使って体験的学習ができるので、児童の興味・関心も高まり効果を上げている。公民館利用では、地域の方々との交流も図れるので大変よい。
- ・本物の資料を直接見て、手で触れることにより感動が深まり、興味・関心が高まった。
- ・地域との結びつきが強まり、児童は地域に対する愛着をもっている。

④ よりよい連携のための提案・方策等に関するもの

- ・現任校は近くに博物館や図書館があり歩いて行けるので利用しやすい。しかし、前任校は地域にこれらの施設がないため、利用するにはバスを借り上げるなど、費用がかかる場合があった。小・中学校の活用については、教育委員会等から交通費の支援等があると利用しやすくなると思う。
- ・H24年度大谷資料館が使えず残念であった。近隣に施設が少なく利用したいと思っても難しい。
- ・どんなにすばらしい施設であっても遠ければなかなか利用できない。近くにあることが必要である。年1回が限界である。
- ・学校でプールが使用できないため、B&G プールを借りている。バスの送迎を市の方をお願いしているが、全学年すべての回がバス送迎ではないので、全て送迎ができるとありがたい。
- ・とても効果のあることなので、もっと活用したいが本校のようなへき地指定校では移動に時間がかかってしまう。もっと、出向いてくれる機会を提供してほしい。
- ・社会教育施設の方で、単元にあった授業プログラムなどがあると利用しやすい。
- ・公民館が本来の役割を果たせるよう、人的、法的に整備していくことが必要かと思う。
(予算をしっかりと投入すること)
- ・近くに資料館や博物館、美術館などがあるともっと有効活用できるし、より深い学習ができると思う。
- ・地域（学区内）に社会教育施設があることは児童にとっても教員にとっても大変有効なので整備をお願いしたい。施設や内容等の充実により活用が十分になれると思う。
- ・本校の近隣には公民館しかなく図書館や資料館等はない。学習の充実のためには、施設があると有効だと思うことがある。
- ・社会教育施設を利用するためにはバスの確保が必要になり利用回数が減ってしまう。多様な出前授業を企画してもらえると利用しやすくなると思う。
- ・移動手段の確保、こちらから出向くことはなかなか難しいので、出前講座を増やしてほしい。
(入館料の減免)
- ・教材や資料等そろえたり、専門的なお話を聞かせてもらったりして大変ありがたい。施設の方との打合せの主な手段が電話なので連絡が取りづらい。インターネット等を活用して見学の予約ができると思うと助かる。
- ・近隣に図書館や博物館があると時間のロスもなく有意義な学習が進められると思う。ぜひ多様な施設をお願いしたい。

- ・博物館利用学習では、見学のみではなく学校ではなかなかできない体験もさせてもらい、大いに児童の興味関心を高めることができた。スクールバスの手配までしてくれて、手続きの煩雑さもなく、博物館利用ができてありがたい。できれば、学校とのバスの往復も活用して関連施設等（古墳、田中正造の生家等）の見学もできるとより学習を深められるように思う。

⑤ その他

- ・地域の方たちがよく集まるため、ボランティアを募る場合、連絡のパイプ役として顔を合わせる場となっている。
- ・コミュニティセンターがもっている地域の団体の事業に子どもたちが参加したり、学校の施設・設備を利用した事業を行ったりするなど、地域の教育施設・教育資源となっている。
- ・今後も博物館や美術館との連携を図り、授業を充実させていきたいと考えている。
- ・日常的な授業等での連携まではしていないので、社会教育関係職員の方の活用について考え実践したい。
- ・出前講座などは利用しており、専門の方の話を聞くことができ、ありがたい。しかし、連携となると全体をコーディネートする者、推進する者などが必要になり、今のままの学校にそこまで求められるのは、非常に厳しい。
- ・連携・協力は大切なことだが、施設のチラシ配布および参加者の取りまとめ、学校開放時の事前準備や事後の片付け等が大変だ。
- ・近隣には公民館しかない環境だが、今後も情報を交換しながら有意義な活動をすすめていきたいと思う。
- ・真岡市にはよい施設がたくさんあるが、バスを利用しないと行けないので、複数回利用できないことが残念だ（根本山自然観察センター、水辺観察センター等）。
- ・公民館の分館なので、PTAの会議での利用がほとんどで、児童の利用については考えていなかった。これを機会に、今後考えていきたいと思う。
- ・毎年、鬼怒水辺観察センターで野鳥を観察することをとても楽しみにしている。
- ・公民館主催でリーダーキャンプを実施しているので、5年生が多数参加しているが、今年は他の行事と重なり、ほとんどの児童が参加できなかった。事前に連絡を取り合い、日程を調整する必要があると感じた。
- ・徒歩での移動になると時間がかかりすぎる距離にある。
- ・公民館の催し物など各家庭で参加する方が多い。また、市教育委員会生涯学習課より「おやま子ども未来センター情報」が届くので、授業の中にとり入れるものは限られてしまうが、教職員、児童への情報提供は続けていきたい。
- ・近隣には、大谷公民館があり、図書の貸出しなども行っているようで、親子で訪れているようである。また、博物館の催しにも積極的に参加している子もいるので、もっと近いと授業の調べ学習などでも頻繁にいけると思う。博物館の授業は子どもの興味・関心をひくもので、とても楽しそうなのでこれからも利用していきたい。
- ・本校は児童が歩いていけるとところに博物館があるので、これを本校の資源として、もっと活用すべきと考える。
- ・社会教育施設が近隣にないため、博物館の出前授業等は活用している。
- ・公民館まつりに参加（作品掲示、ダンス発表）するのみの連携だった。
- ・学校の近くには、栃木県埋蔵文化財センターがあり、国分寺跡などの史跡とともに学習に大変役立っている。これからも身近な社会教育施設の方々に御協力をいただき、充実した学習ができるように工夫していきたいと思う。
- ・校務が忙しい中、事前打ち合わせ等の時間を確保するのは大変だが、学習に活用できる施設が学区内にあるのは学習効果を上げる上で、とても助かり、必要に応じてできる限り活用したいと考えている。

- ・近くにあるので児童にとって身近な存在だ。徒歩でいけるので利用日の日程を組みやすい。
- ・近隣に立地していることで、移動に時間がとられず必要なときに利用できることが多い。一方で公民館等の事業に合唱部が参加・協力している。
- ・学校の多忙の中、行政が年 1～2 回学校と社会教育施設との意見交換の時間（さらに教材づくり）を行うことも重要と考える。
- ・近くに図書館があることで、学校施設と同様な感覚で利用でき、学習に大変役立っている。
- ・図書館借用により効果的な学習を工夫することができた。連携を図ることに努め、児童が自主的に活用できるような体制が作れればと考える。
- ・これからはますますこれらの機関・施設等との連携を図りながら学びを広げ、深めていくことが必要となってくると思う。連携・推進役としての力をつけていきたい。
- ・佐野市内の博物館は市内の 4 年生を対象に博物館利用学習を行ってくれている。スクールバスの手配や博物館での学習などすべて準備してくれて助かる。職員も親切に対応してくれている。社会教育施設を利用したいと思うが、遠くにあると移動時間や手段を確保しなければならない。近くにある施設をもっと活用し連携していくことを考えていけばいいのかもしれない。
- ・今後とも身近にある公民館と連携して地域の中の学習材を広く活用させてもらえたらと思う。
- ・近くの社会教育施設が公民館しかないので、他の遠くの施設を利用している学年が多い。
- ・一部の教職員ではなく、担任一人一人が近隣（本校の場合は隣接）の公民館職員との連携が気軽にはかれるようにしたい。周辺に公共施設がない土地柄なので、公民館をもっと大切にしたいと強く思う。
- ・児童が公民館に親しみをもち、進んで利用する姿が見られるようになった。教職員と公民館職員で、直接打合せをすることが比較的容易にでき協力しやすい。教職員と公民館職員に異動があると、前年度の反省が十分に生かしきれない面がある。

〔中学校〕

① 社会教育施設側が提供してくれるサービスに関するもの

- ・生徒数（775 人）が多く、生徒・保護者が同時に活動したり鑑賞したりできるスペースが確保できる施設が近くにある（栃木県総合文化センター）ことは有り難い。
- ・地域の各種行事の中心基地としてよく機能しているばかりでなく、中学生が各種行事に積極的に参加することを可能にする働きかけができています。
- ・公民館にボランティア人材を紹介してもらっている。
- ・様々な面で学校行事に物品や人材を派遣していただき大変助かっている。
- ・「マイチャレンジ」を快く受け入れていただき、ありがたかった。
- ・「職場体験学習」において、多くの生徒を受け入れてくださり、多彩な活動を経験させていただけることは大変ありがたい。
- ・図書館においては細やかな指導のもと、生徒の実態に応じて仕事を体験させていただくなど、有意義な学習の場を提供していただいている。
- ・例年、小・中・公民館共催で講演会を開催しているが、本年度より「中学校公民館合同文化祭」を開催することになっており、公民館に多大な協力をいただいている。
- ・大変親切に対応していただき、講話の内容も生徒にとって興味深いものでありがたいと思う。
- ・公民館事業で行った〇〇教室。講師の先生を紹介していただいて出前授業を行っている。必要な人材を見つけてもらって、助かることが多い。
- ・授業等で博物館の方が講師として出張訪問してくださり、展示物を実施にもってきてくれて、体験できるなどの利点がある。

② 社会教育施設職員の対応に関するもの

- ・とても協力的にやっていただいている。
- ・親切に対応していただいている。

③ 連携の効果に関するもの

- ・社会教育施設と連携しながら地域の行事への参加やボランティア活動等が効率的にできる。学校でできない活動を地域の施設（施設の整備された）を活用してできることは有意義である。
- ・社会教育施設との連携を深めることで、特色ある学校づくりや地域とともにある学校づくりを推進するのに有効である。
- ・地域の子は地域全体で地域の中で育てるという意識を共有することができ、今後よりよい形で更に継続発展させていきたい。
- ・地域の方々が来校して生徒達との交流活動を進めていく中でお互いの理解が深まった。
- ・普通の授業ではなかなか取り組むことができない内容を実施することができるので、生徒の体験活動に有意義である。
- ・地域学習の際、郷土史に詳しい講師を紹介していただき、生徒の学習意欲、郷土への興味・関心が高まった。図書館、社会体育施設など優先的に借用でき、生徒の活動がスムーズに行えた。
- ・生涯学習センターでよい企画（音楽・講演等）をしても、なかなか中学生は部活動があり、参加しない。そこで、学校と連携することによって、中学生の参加率を増やすことができるので、大変よいことであると思う。
- ・必要な資料について、インターネットや本などにより、現物を見て説明などを聞くことにより、より身近に物事をとらえることができる。学習の場が変わることで生徒の意欲が高まる。
- ・学校の教員にはできない社会教育の視点からの様々な学習活動がとても新鮮であり、生徒の学習意欲や興味・関心が高まり、とてもありがたい。
- ・学校行事で公民館と連携して行っているが効果が上がっている。例えば「強歩の開会セレモニー」で「ゆるキャラ」を呼んで生徒の関心を高めるなど、行事の活性化に公民館はとても貢献してくれている。
- ・地域に開かれた学校、地域とともに生きる児童・生徒の育成のために大いに役立っている（ボランティアや施設の活動に参加して）。
- ・学校にない資料や教材があり、興味・関心が刺激される。学校の教員以外の人から指導を受けることにより、幅広い教育が可能となる。
- ・環境が変わることにより生徒の意欲が増す。
- ・本校では足利市立美術館を美術部の活動で利用している。美術館を利用する利点は、学校では収蔵しておくことができない貴重な作品の数々を、生でみられることにあると思う。美術館を利用し、本物に触れる機会を設けることに教育の効果を感じている。

④ よりよい連携のための提案・方策等に関するもの

- ・近くに施設がないので不便。
- ・近隣では市立の公民館だけなので連携をとりたい施設（博物館・美術館等）が遠いのが、問題であると感じている。
- ・公民館（出張所）しかないので生徒が利用できる機会がほとんどない。
- ・地域的に極端に偏ることがないように社会教育施設の整備・拡充を図ってほしい。
- ・教育活動に導入できるコンテンツの紹介や計画・調整のためコーディネートするシステムがあるとよいと思う。

- ・物品の貸出しや施設の利用（方法）等についての案内・情報提供がもっとあるとよい。
- ・本校は土曜日授業を実施している学校なので、地域の施設をさらに有効活用していけるよう検討していきたい。

⑤ その他

- ・利用しているところが限られているので、もっと拡大していきたい。
- ・社会教育施設を介して、地域の人々が多く学校に足を運び、地域の子どもを地域で育てるという地域教育力の向上と地域の学校意識をもてるよう、協力関係を密にしていきたい。
- ・担当の職員が連携を図るため時間をとる必要があり、難しい面もある。
- ・近隣といっても本校と公民館は離れているので移動時間もかかり、積極的な利用ができていない。
- ・これからも連携を深めていきたい。
- ・総合的な学習の時間にはよい。
- ・博物館からの出前授業でどのようなことが可能であるか学校職員が知らないケースが多いと思う。単発的に理科や歴史的内容のもので直接お願いすればいいのかわからない。
- ・近隣の公立社会教育施設とは良好な関係を構築し、利用しやすい雰囲気づくりができています。
- ・利用というより協働で行事をもっている。
- ・地域社会と学校の連携は今後ますます必要になる。そのために、公民館やコミュニティセンターの果たす役割は大きいと思う。

社会教育施設の提供するサービスや職員の対応について感謝する内容が多く見られる。また、連携を深めていく上での具体的な要望も出されている。中には、各施設が対応するのに困難と思える期待や要望も見られるが、学校側が率直に何を求めているのかを把握するためのヒントになると考えられる。さらに、近隣の社会教育施設との連携以外に、遠方の社会教育施設の出前授業や移動図書館（本の団体貸出しサービス）、バス利用による社会教育施設利用といった内容のものもあったが、全てそのまま記載した。

問 12 これまで実践した事例の中で、参考となる事例がありましたら御紹介ください。

事例を学校種別に記載する。

〔小学校〕

- ・校舎内に地区のコミュニティセンターが同居しているので、部屋の賃借や事業協力、共催は日常的に行われている。児童を対象とした各種教室（茶道・太鼓・百人一首）も企画してくれるし、夏休みには「学校に泊まろう」という事業を企画してくれ、本年も全児童の4分の1強が参加した。コミュニティセンターとの連携は、他校に比べてかなり進んでいるように思う。他の施設との連携は今一步のところである。
- ・PTA 活動や親学習の場としての活用、連携を図っている。
- ・民間の特別養護老人ホームが学校の隣にあり、複数の学年と交流を続けている。
- ・教職員研修で美術館を活用しての鑑賞の授業について模擬授業を行った。
- ・6年生の鑑賞で出前授業をしていただいた。共に専門家ならではの視点、授業の切り口に大変勉強になった。
- ・うどん作り（6年生）、文化祭への参加（踊り、習字や図工の作品展示）、ゲートボールクラブ（4～6年生）、地区体育祭への参加（鼓笛隊）。

- ・本の読み聞かせに昨年度一度来てくれて、今年度も10月以降5回来てくれる予定（2km位離れている図書館）。
- ・地域にゆかりのある児童文学者「千葉県三」の学習について、千葉県三記念館の見学等を通して効果的に進めることができている。児童館について、見学学習の他、クリーン活動（学行）として、児童館敷地内の除草作業（草むしり）を行っている。
- ・国語科では図書館から授業内容に関連した本を借りて、発展的な学習を行った。公民館主催のスキー教室に児童と教職員で参加した。美術館に行き（又は学芸員に來校してもらい）、図工鑑賞教室を実施した。
- ・県立博物館と年に3～4回連携し物品を借用したり出向いていただいたりしている。とても助かっている。
- ・定期的な社会科の校外学習（3、4年）など。
- ・社会科3学年小単元「古い道具と昔の暮らし」郷土資料館で古い道具を見せてもらい解説してもらった。
- ・小山市の小学校では、博物館（学校からは離れている）から出前授業（社会：昔の暮らし、理科：昆虫教室）を年間計画に位置づけし、各学校で活用している。内容についての連絡調整は、あまり必要がなく、負担も少なく、児童からも好評であり、有効である。
- ・1年保護者対象の家庭教育学級で、24年度「子育てについて学ぼう」（講話）、25年度「読み聞かせ上手になろう」が有効であった。
- ・H25年度は教職員の研修でも「ふるさと学習」の講師を紹介してもらい、大変勉強させていただいた。
- ・4年社会（地域の発展）、2年生活（まちたんけん）。
- ・6年音楽では講師の紹介はもちろんのこと、箏の手配までしてくださった。全員が体験することができた。また、茶道体験でも公民館の和室を使用させていただいた。畳の準備をすることもなく大変助かった。茶碗を洗ったりお湯を沸かしたりするにも便利だった。
- ・さくら市では図書館と学校（図書館教育担任）の交流を年2回行っている。
- ・福祉センター職員による出前授業（食育講座）、図書館ボランティアによる毎月の読み聞かせ。
- ・用具を公民館から借り、講師は別に地域ボランティアをお願いしている。
- ・子ども達の読書意欲を高めるためにも、単元に関わった豊かな資料で授業が行えることから、地域に図書館があるのは嬉しいことである。また、親父の会主催の「通学合宿」で、地域の集会所を利用した。子どもたちの心に残る活動が展開されている。地域の指導者による「ぼうじぼ作り」も行われている。
- ・図書館からの貸出本を「ふれあい文庫」として教室に配置している。毎月、図書館の方が来てくださり、「ふれあい文庫」の本の入替えをしている。本の種類は、国語や総合的な学習に関連するものを時期に合わせて持って来てもらっている。「ふれあい文庫」を各学級に配ったり、集めたりする時には、図書委員会の児童が活躍している。
- ・大田原市ふれあいの丘との連携（天文館スタッフを招いての天体観望会、自然観察館展示物の借用など）。
- ・施設だけでなく備品等の借用も大変役に立っている（放送機器、テント、イス、DVD等）。
- ・地域・学校・公民館が中心となって毎年「山前ふれあいまつり」という大きなイベントを開催している。近年は「山前地区文化祭」と同時開催となり、地域の方々が集い、大人と子どもがふれあうことができる貴重な体験の場となっている。
- ・公民館との共催の「ふれあい広場」。
- ・平成25年度には、公民館職員で陸上競技に堪能な方が本校陸上部（課外活動）のアドバイザーとして参加してくれることになっている。学社連携の一つの良いあり方だと考える。
- ・夏季休業中に行われた公民館主催事業である「こども学習会」に教職員が講師として参加した。学校公開の時、地区のボランティアとの交流体験学習を公民館と共催で実施した。

[中学校]

- ・コミュニティセンター主催行事（敬老会等）に生徒がボランティアとして参加している。毎年恒例の活動として定着。
- ・「姿川地区子どもフェスタ」への参加・協力（姿川地区コミュニティセンター）。
「文化祭合唱コンクール」（市文化会館）。
- ・コミュニティセンターが行っている「コミュニティ祭り」を総合的な学習の時間の学習成果、発表の場と位置づけている。また、地域の教育資源（人材、教材）を活用する際などに窓口になってもらっている。
- ・「地区コミュニティ敬老会」「青空市」（コミセン主催）を毎年休日に本校会場で実施している。それに本校生徒が福祉教育の一環として全員で参加し、「地域ふれあい体験学習」として行っている。
- ・生涯学習センターとの連携による「人権講演会」の実施。
- ・本校は全生徒5名という極小規模校であるため、平日・毎日・午前中は地域のグランドゴルフ愛好会の方々が校庭を利用して活動している。そのため、地域の高齢者の方々と自然に交流ができています。また、10/26（土）には、生徒会活動の一環として「グランドゴルフの交流とバーベキュー」を予定している（グランドゴルフ愛好会主催）。
- ・文化会館大ホールの使用において、ホールが空いている時はステージ等を使わせてもらえる。職員の方にも反響板設置やひな壇設置、照明音響調整などで、積極的に協力してもらっている。夏季休業中などは空調も利用しており快適に活動している。
- ・毎年、公民館と学校の共催により、1年保護者対象の「思春期講座」を実施している。講師の依頼などをさせていただき、有意義な研修となっている。
- ・職場体験学習の場として。総合的な学習の時間における調べ学習の場として。学区内小学校中学校の連携の場として。
- ・小山市立図書館での「職場体験」、穂積公民館主催による「思春期講座」。
- ・近くの文化会館での「合唱コンクール」「卒業式」の実施。
- ・2学年の「総合的な学習の時間」において地域の課題を見つけるきっかけとして、市役所の「まちづくりリクエスト講座」で環境課、総合政策課、商工観光課、農政課の担当職員の方々に来校していただき、専門的な話をしていただいた。
- ・コミュニティの総会に本校生徒会役員、学級委員なども出席する。ボランティアの一貫として、「敬老の日」に鉢植えにメッセージを加え、高齢者に配布し、高齢者との交流を図っている。
- ・「全校道徳」で、生徒と地域の住民（高齢者）対象に講師を公民館が選定し、心にしみる講話を行っている。講師の選定もよく、毎年良い話を聞き、生徒が道徳的な心情を考えるのにも効果を発揮している。
- ・かつて博物館の学芸員が学校に来校して出前授業を行った（社会科歴史、理科化石分野）。
- ・郷土博物館で行っている「特別展」「企画展」が大変興味深かった。日光例幣使（学校行事）に関する展示が参考になった。福祉体験の学習が社会福祉協議会主催の事業参加につながった。
- ・近くのコミュニティセンターで赤ちゃんをもつ「母親学級」を開催しているので、そこへ出向き家庭科の学習、赤ちゃんとのふれあいができたらいいと考えている。